

教育委員会会議の概要（令和2年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和2年7月22日（水）午後2時00分から午後6時05分まで
- ◆ 場 所 仙台市役所本庁舎 第1委員会室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	佐々木 洋	出席
委員・教育長職務代理者	吉田 利弘	出席
委 員	花輪 公雄	出席
委 員	中村 尚子	出席
委 員	里村 正治	出席
委 員	阿子島 佳美	出席
委 員	梅田 真理	欠席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 里村 委 員

3 協 議 事 項

（1）令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

教 育 長 それでは、協議事項に入る。

本日は、7月17日に引き続き、中学校の教科書について、数学・音楽（一般）・音楽（器楽合奏）・保健体育の4種目について協議を行うこととする。また、特別支援学校・特別支援学級で使用する一般図書、文部科学省著作教科書についても協議を行う。

それでは、数学について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指導主事 中学校数学について説明する。

中学校数学では、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成するため、「（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする」、「（2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う」、「（3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生か

そうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、数学に関して、数学的に考える資質・能力を育成する観点から、現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過程を学習過程に反映させることを意図して、数学的活動の一層の充実を図ること、また社会生活などの様々な場面において必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり、意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図ることというような趣旨で改訂された。

協議会において取りまとめた中学校数学の全発行者の特長は、別添2の18から19ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、各章に「活動」「例」「例題」がバランスよく適切に配置されており、学びの助けになっている。また、生活に関連付けて考えられるように工夫されており、数学を身近に感じて学べるように配慮されているということである。

次に、B者は、「みんなで学ぼう編」「自分から学ぼう編」の2部構成で、節ごとに扉が設定されており、主体的に学習に取り組みながら、数学の楽しさや良さが感じ取れるように工夫されているということである。

次に、C者は、数学的に問題解決する過程を焦点化するために、課題が対話形式で取り上げられており、「Q」や「TRY」も適切に配置されている。また、各章の初めに、「ふりかえり」として、その章に関連する既習事項を示し、関連付けて学ぶことができるように工夫されているということである。

次に、D者は、1年生の冒頭に「0章」を設け、小・中学校の学びの接続に配慮されている。教科関連マークや「Dマーク」等を配置し、他教科に関連する題材を示し、数学の学びが広がるように工夫されている。また、紙面にゆとりを持たせるなど、余白の使い方も工夫されているということである。

次に、E者は、ねらいを細かく示すことで、見通しを持った学習を可能にし、章の問題では評価の観点を示して、主体的に学習できるように工夫されている。また、「みんなに説明しよう」が適切に配置されており、言語活動の充実につながるように配慮されているということである。

次に、F者は、各章で「次の章を学ぶ前に」というまとめが設けられており、小・中学校の既習事項と関連付けながら学習できるように配慮されている。また、目当てを示すことで、何を学ぶかを明確に意識しながら学習できるように工夫されているということである。

次に、G者は、各章の「数学的活動」では、身近な話題の中で数学的に思考することを通して、数学の面白さを実感できるように工夫されている。また、題材が豊富であり、日常生活や他教科等と結び付けて学習できるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等あればお願いする。

里 村 委 員 今のご説明に対し、少し違う観点から質問させていただきたい。

今回、どの教科書も非常に良くできており、選択に困っている。そこで質問だが、数学の教員にとって、教えやすい教科書というものはどのようなものなのだろうか。色々ご苦労はあると思うが、数学に関してどのような苦労があるのか、またその苦

労が少しでも軽減される教科書とは、どのような教科書なのだろうかという点について伺いたい。

指 導 主 事 学校訪問や研修等から、学校現場においては、学習指導要領改訂の趣旨及び各教科の目標を達成させる授業づくりと、数学をより実生活に近付けるための題材選びや教材・教具の開発、平成 31 年度仙台市標準学力検査で課題となった中学校数学、表現等の学力向上、そして、既習事項が次の学びにつながる教科の特性上、習熟の程度に応じた問題設定や振り返りの四つが課題になっていると考えられる。各発行者がこれらの課題を解決しようと様々な工夫を盛り込んでおり、生徒の分かる喜びに結び付くように指導の充実が図られると考える。

教 育 長 他にないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。まず、里村委員から願います。

里 村 委 員 A者であるが、実社会で活躍する人々のメッセージを通じて、数学で学んだ知識が自分の職業等に生かされる具体例を示し、生徒に自らの学習と日常生活、社会との関連について実感させるように工夫されている。問題発見・問題解決を通じて、数学的思考力、判断力、表現力等を育てることをねらいに、章の導入部に数学的活動を記述している。「学びにプラス」、「力をのばそう」を設けて、数学における言語活動の充実が図られるように配慮しているということである。

先ほど事務局からお答えいただいた中で、学校現場でも課題として捉えている数学をより実生活に近づけるための題材選びについて、各者の寸評においても、触れてみたい。

B者であるが、一言で言うと、分かりやすく親しみの持てる教科書である。具体的には、新しい学習に円滑に入っていけるような「ひろげよう」を設けて、「〇〇の利用」で課題を解決する過程を4段階に分けて提示するなど、分かりやすさを追究した内容になっている。教科書の最後段にある数ページからなる「学びをいかそう」は、理解を深める上で有効だと思う。数学を通じて、社会生活の課題に対しても活用することができる数学的な見方・考え方を体得できるような教科書を目指しているということがうかがえる。

C者である。「Q」あるいは「TRY」等を設けて、数学的な見方・考え方や自己の考え方を表現する力が日々の学びを通じて自然に身に付くように配慮されている。各学年ともに、後段に「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」を設けて、やや難易度の高い問題に取り組みせるとともに、基礎的な理解を深めさせる工夫が見られる。各学年ともに、「探究ノート」が別冊として付いている。資質・能力を高める工夫の一環として、本冊と別冊の2部構成にしていることが良い。特に別冊で、学びを活用・発展させるための題材を取り入れられており、そういった工夫がうかがえる。生徒同士の対話を手掛かりに、数学的な見方・考え方を深め、問題解決型の学習を進めやすくさせる構成になっている。

D者である。基礎的概念の習得にとどまることなく、数学的活動を通じて問題解決型の学習を促すことに配慮している。また、例えば教科書の後段にある「大切にしたい見方・考え方」、「数学の自由研究」、「補充の問題」を活用することで、思考力、判断力、表現力等をさらに伸ばしていけるように配慮されている。「虫眼鏡」マーク

を活用することで、見方・考え方を引き出したり、学びを振り返らせたりすることに有効である。さらに、「深い学び」のページでは、解決の過程を改めて振り返らせ、安心して学習が進められるように工夫されている。

各巻末に「豊かな学びが未来を拓く」と題して、保護者へのメッセージがある。教科書は、生徒が主体的に学びためのパートナーであり、教員が指導する際の主教材だけではないというような保護者へのメッセージもあり、非常にすばらしいメッセージである。良質な教科書としての一端がうかがえる。

E者である。生徒に数学を学ぶ大切さを実感させ、学ぶ意欲を高めるために、日常生活や実生活で使われている数学の事例を多く取り上げている。冒頭に、事務局の方から説明されたポイントを突いていると思う。数学を学ぶ上で、地球温暖化、大気中の二酸化炭素の濃度、数学を活用する気象予報士の職業等を取り上げて、広く数学が社会と関わっていることについて取り上げた内容になっている。「自分の考えをもと」「友達の考えを知ろう」で、論理的思考に加えて対話的な表現力を高める工夫がある。

F者である。F者の特色は、生徒のつまづきを未然に防ぐことを目的として、「次の章を学ぶ前に」「確かめようQ」を設けた配慮がある。数学嫌いの生徒を作らないようにする、そういう配慮が行き届いた教科書だと思う。伝統工芸品や地図等の題材を用いて、数学の学びの中でも日本の文化に触れさせて、数学に興味深く取り組ませる工夫が見られる。巻末にある「対話シート」を用いて自分の考えを整理したり、お互いの考えを伝え合ったりすることができるように、数学を通じてコミュニケーション能力も高めようというような工夫が見られる。

G者である。巻頭の「数学の力」で数学に関係している様々な職業を紹介したり、「今の自分を知ろう」でSDGsに触れたりするなど、教科数学が担う広範囲の教育にも配慮した内容になっている。タイトルになじみのある数学用語を用いて、オーソドックスな説明とともに、内容の展開に安心感があるという印象を持った。最後段の「さらなる数学へ～協働学習のページ～」は、単なる数学の学習に終わらせないように工夫されたG者の優れた特長である。例えば、その中の「表現する力を身につけよう」では、伝える側と聞く側の双方のコミュニケーション能力を高められるように工夫しており、特に数学という教科の担う幅広い教育に重点を置いている一端が感じられる。

吉田委員 数学は、授業改善の3観点のうち、主に主体的学びと深い学びの二つの観点の各要素から見させていただいた。

まず、A者である。目次に小学校算数や前学年の数学の既習項目が記され、生徒にこの教科の特性である系統学習について認識させている。このことについては、D者、E者、F者、G者も同様である。また、各章の導入ページには、身近な生活とこれから学ぶ内容を関連させた話題を設定し、学習への動機付けを図っている。各節の初めの部分では、身の回りの事物の現象や生活上の行為と数学を結び付け、同じように動機付けと見通しを持たせるようにしている。振り返りについては、各章・節に学習の定着と応用力を養う発展的な問題で構成している。さらに、各章に特設している実生活の中で生かす数学コーナーは、深い学びに結びつくものと思われる。

続いて、B者である。算数学習の振り返りが6ページに構成され、算数と数学との連携に配慮していることが分かる。また、A者同様、各章と節の導入部分に、生活と

数学を関連させた場面を設定し、興味と学習への見通しを持たせるようにしている。1 単位時間の学習においても、「例題」、「例」、「問」と各項目のタイトルが表示され、学習への見通しを持たせている。振り返りについては、章の終わりで、基本の確認と定着を、そして応用を図った問題の 2 部構成で編集されている。さらに、考えたことを説明する場面が各所に設定され、表現力だけでなく、数学的な思考力を高め、深い学びへと結び付けている。別編では、自学のためのつづり部分があることや、ノートを取り方を紹介していることも特長である。

次に、C 者である。各学年の章の初めに既習事項が記され、1 年生であれば、小学校の学習との関連が分かり、スムーズな移行が図られている。また、章の初めの生活の中に数学を見つけるページは、生活に生きる数学を感じ取ることができる。さらに、1 単位時間の初めに課題的な内容を提示するところがあり、学習の見通しを持つことに役立つものと思われる。各節のポイントとなる部分について、別冊ノートの中で、学習内容を発展させたり、生活場面に応用させたりしており、深い学びに結び付くものである。

続いて、D 者である。まず、特長的なこととして、特設の章を設けて算数の振り返りを行っていることである。また、目次でも、A 者同様、既習事項を示し、系統性を大切にする教科の特性について触れている。また、各章の扉で、生活と数学の関連性に触れているが、学校生活、家庭生活、遊びの場面と多岐にわたり、数学への関心を高めている。さらに、章のタイトルの文言や各時間の目標表示が具体的で分かりやすく、ともに見通しを持った学習へと結び付くものと思われる。振り返りについては、章の終わりに、2 形態による学習のまとめがあり、その中の一つが応用・活用内容になっており、数学的思考力を高めることに結び付くものと思われる。さらに、節の中に設けている特設ページは、生活の出来事を数学で解決させるなど、発展的な学習内容の編集となっている。

次に、E 者である。小学校算数との連携で、章の初めに 1 ページを設けて既習事項を確認していること、巻末に算数学習の要点を編集していることなど、丁寧な対応が見られる。章の導入部分で、生活上の身近な課題と数学との関係を紹介し、学習への関心を高めている。学習への見通しについては、各節に課題を設定するとともに、学習の展開に合わせて様々な指示や提案がなされ、先を見通した学習に結び付くものと思われる。振り返りについては、節と章の終わりに問題等が設定されているが、章の終わりで学習内容を再度確認しているところが特長である。また、章の終わりの一部の活用問題と各所に設けられたコラムを通して、深い学びへと発展させることもできるよう配慮されている。

次に、F 者である。D 者同様、巻頭に算数学習の振り返りを 4 ページ設け、算数から数学へのスムーズな橋渡しに配慮している。また、章の導入の編集が E 者と同様に充実しており、1 年生は算数の、2・3 年生は前学年の既習内容を練習問題で振り返り、ウォーミングアップを図っている。そして、生活と数学の関連について触れ、学習への期待を高めている。見通しに関しては、各時間に目当てが設定されていると同時に、一部の内容で、見通す、考える、話し合う、振り返る、深めるというアクティブ・ラーニングに直結するような言葉が記されていることも特長である。さらに、振り返りについては、節の「基本問題」のコーナーに「間違えやすい問題」が設定されていることも特長である。

最後に、G者である。章の初めに、1年生は算数の、その他の学年は前学年までの既習事項を確認することから始まっていることに特長がある。また、章の初めは、数の不思議や生活の中の数学等から始まっており、学習への関心を高めるような工夫がうかがえる。見通しについては、各時間に「目標」が設定され、時間の終わりに、理解についての確認、問いかけがなされている。要所となる学習場面では、活動の道筋をインデックス的なもので示していることが特長である。振り返りについては、節での確認、章での基本問題、応用問題での確認、発展問題は定着度チェックと文章表現で学習への思いを表現させていることが特長である。

花輪委員 数学は、数や図形についての概念や法則を理解することで、私たちを取り巻く環境で起こる事象を数理的に解釈したり、表現・処理したりする力を養うことを目的としている教科書であると思う。今回、7者から教科書の提案があった。どの者の教科書も、この目標を達成するように工夫されたものになっている。

まず、外形的なところである。どの者もB5判を採用している。本文の総ページ数は830ページ強から900ページ強、平均850ページ程度である。特に大きな差があるというわけではない。C者のみ、別冊にノートを付属している。このノートの3年間の総ページ数は152ページだったので、合わせると、この者だけが約1,000ページの分量ということになる。

各学年の章立ては7者ほぼ同じである。1・2年生が7章構成、3年生が8章構成になっているが、F者のみ最後の2章が一つにまとめられ、2年生が6章構成となっている。

以下、各社に対する寸評である。

A者である。この者は各節が「考えよう」で始まり、「活動」で思考する方法を学び、「たしかめよう」で問題を解くというプロセスで進む。また、これを一貫して繰り返す中で、数学的概念や言葉の定義、約束事を学ばせるやり方で、とてもリズムカルな教科書だという印象を持った。各章の最初に、問題形式で扱う内容の見通しを持たせている。章の最後の節は、「〇〇の利用」とする節であるが、「問題を見いだそう」、「解決のしかたを探ろう」、「解決しよう」、「深めよう」の順序で考察を進めていく。学習した内容の定着を図るための良い工夫といえる。章の終わりでは、「たしかめよう」で振り返り、「活用・探究」ページで視野を広げるとともにまとめを行い、「社会にリンク」で先輩の数学への思い等を紹介して、数学を身近なものにする工夫もしている。

また、この者の巻末資料は、「もっと数学の世界へ」と題するものであるが、各学年40ページ以上の資料で構成されている。内容は、「課題学習」で各章の問題を、「MATHFUL」で数学関連の話を、各学年の振り返りのページで、学習したことをまとめ、さらには「補充問題」、「総合問題」もあり、充実したものとなっている。

次に、B者である。数学の教科書は通常左とじであるが、他者と同じく、教科書に当たる部分を「みんなで学ぼう 編」とした上で、裏表紙の方から右とじの「自分で学ぼう 編」を挿入していることが特長である。この部分は、やや縮小された印刷であるが、1年生から3年生まで50ページから80ページ分印刷されており、自学自習を積極的に行わせようとの工夫である。

新しい章への導入は、簡単な問題を「話しあおう」としてグループでの学習活動に導き、何を学習するのかを理解させる方法を取っている。教科書の進め方は、「〇〇しましょう。」と入り、解説を加えただけで、「練習問題」を解くという構成である。ま

たその途中に、「話しあおう」、「説明しよう」という対話的な学習活動が挿入されている。さらに章末には、「学びを確かめよう」（基礎）と「学びを身につけよう」（応用）という、それぞれ各2ページのボリュームある問題が並んでいる。学習したことをしっかり身に付けさせるように工夫されている。全体的に、補助資料の挿入が抑制されており、すっきりした構成となっている。また、この者の本文はイラストを多用しているが、その使い方が巧みで、教科書の雰囲気がほのぼのとしたものになっている。

C者は、別冊「探究ノート」を持っていることが特長である。このノートでは、深める課題、総合的に考える課題を行う目的で用意され、自学自習的な使い方ができるように工夫されている。教科書の導入に、ノートの取り方とともに、レポートの書き方を2ページ割いて紹介している点は良い試みである。

この者の新しい章への導入は、関連する振り返り問題を解くことから始まるのが特長である。学習は、学ぶ対象を説明した後、「TRY」として、皆で例題を解いて、その方法を新しい問題に適用するという進め方を採用している点も特長である。

また、章の途中に補助資料を入れることに抑制的であり、章末は、「確認問題」と、より深く身に付けるための「問題A」、「問題B」を置いているだけである。その代わりに巻末資料が充実しており、「数学旅行」と名付けたコラムや「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」と題した各章2ページの問題、年間のまとめ、回答が印刷されている。

各学年40ページを越す分量である。「数学旅行」で取り上げられている話題は、地球環境問題を含む多岐にわたるもので、数学への思考を適用すると、私たちの選択が分かるような話題となっている。数学的思考の重要性を示す良いコラムである。

次に、D者である。他者にはない特長として、章の名前の付け方がある。1年生の第1章を例にとると、他者は、学習指導要領の記載に準拠した「正の数・負の数」であるが、この者は「数の世界をひろげよう」としている。この章の名称の工夫は3学年を通したものであり、生徒たちに、この章で何を行うのかを直接示すものとなっている。また、1年生の導入部では、「第0章 算数から数学へ」を設けて、小学校算数から中学校数学への橋渡しをしている点も良い工夫である。

この者の新しい章の導入は、「〇〇してみよう」等から始まるものが多く、その章で取り上げる内容を考えさせている。本文でも、「考えてみましょう」から始まり、解説、例の提示、問題というプロセスを取っており、リズムカルな進め方である。節の末尾には「基本の問題」を、章の末尾には「章の問題A」「章の問題B」を置き、学びの定着を図っている。巻末資料も充実しており、「大切にしたい見方・考え方」、「数学の自由研究」、「補充の問題」のコーナーを設け、深い学びとその振り返りができるような構成になっている。

E者である。この者の導入は、整理がなされた良いものである。特に、4ページを費やして説明している「数学的な考え方」は、生徒には多少難しい点があるかもしれないが、秀逸だと思う。

また、新しい章の前に、これまで習った内容を振り返り、章の初めの「Let's Try」の問題で学習内容を押さえてから本文に入ることや、多くの節では、問いかけから始まり、それに対する説明、「たしかめ」で問題を解くという構成の工夫が見られる。章末には、「学習のまとめ」として、確かめ問題が配置され、学習の定着が図られている。

教科書に多くのコラム「数学の広場」があり、豆知識を得ることができる。巻末の

「学びのマップ」は、1年生であれば小学校との、2年生であれば1年生との学習内容の関係が示され、数学は積み上げの教科であることを明示する良い工夫である。巻末資料も充実している。「数学の広場」の拡大版に加え、「学んだことを活用しよう」や「補充問題」が設けられており、「学んだことを活用しよう」では、実生活に現れる問題が意識的に出され、数学的思考の重要さを気付かせるものになっている。なお、この者と次のF者が、索引に英語も併記してあり、良い試みである。

F者である。この者の学習の進め方は、「Q」として問いかけを行い、「例」で学習する具体例を示し、「問」で学習を理解するための問題を解くというプロセスとなっており、理解を進めている。所々に「やってみよう」の活用問題や、「まちがえやすい問題」を挿入するとともに、巻末には、その章の問題と、「とりくんでみよう」という、やや高度な問題が配置されている。また、幾つかの章では、対話型学習「学び合おう」が掲載され、巻末にとじ込んだ「対話シート」を使ったグループで学習課題を行う工夫がなされている。さらに、関連する興味深い話を収めたコラム「数学のたんけん」が所々に挿入されている。

巻末資料の「数学マイ トライ」も充実している。「数学を仕事に生かす」、「暮らしと数学」、「数学研究室」、「プログラムと数学」等興味あふれる話題が多数掲載されている。さらに、それまでの復習や「補充問題」「活用の問題」があり、確かな学びとなるよう工夫されている。E者と同様に、索引にも英語が併記されており、良い試みである。

G者である。この者の導入では、数学の学び方を教科書の並びに沿って、段階的に説明しており、大変分かりやすいものとなっている。例えば、「章のとびらで問題発見！」で始まり、「Question で問題を考えよう！」に続き、『『どんなことがわかったか』をまとめよう！』等の説明で分かりやすく順序が示されている。本文も同様の順序で進められているが、頻繁に「Tea Break」なる短い読み物を挿入し、プラスあるいはマイナスの記号の由来となった興味深い話を挿入する等、飽きがこないように工夫されている。

章末は、「まとめの問題」や応用問題、文章題を扱った活用問題を置き、さらに「深めよう！」のコーナーを設けて、その章に関連する深い学習へ導いている点が特長である。また、巻末に置かれることがある学びのチェックを章の後ろに入れていた点も特長と言える。

巻末資料「さらなる数学へ～協働学習のページ～」は工夫された内容のものであるが、特にこの中の「今の自分を知ろう」というコーナーは、全ての学年において、国際連合のSDGsを話題に取り上げ、数学的思考を生かして社会問題を考えさせようとしており、大変良いアイデアである。

阿子島委員 まず、A者から申し上げる。巻頭、「この教科書の使い方」や、「数学の世界へようこそ」では、数学の学習の仕方が明記されており、本編、そして巻末には、「もっと数学の世界へ」と題して、「課題学習」や前学年までの復習、「総合問題」等が掲載されている。数学的活動の中で、数学的な見方・考え方を働かせることができるような具体例を設けており、数学科の目標達成のための工夫がなされている。章末の「社会にリンク」では、様々な職業で活躍している人物を紹介し、その職業と数学の関連に触れて、数学の有用性を実感し、学習意欲が高まるように工夫されている。

目次には、これまで学んだこととして、既習事項の学年の内容について明記されて

おり、学んだことを振り返ることができ、学習効果が上がるように配慮されている。章末に、学習内容を活用して課題を解決する「活用・探究」を設けており、思考力、判断力、表現力等を育成できるように工夫されている。また、「プラス・ワン」「補充問題」は、生徒の習熟度に応じて取り組むことができるように配慮されている。巻末の「MATHFUL」では、数学と身の回りの事象との関連を扱い、理科や美術、音楽等の他教科や総合的な学習の時間等との関連に配慮された内容が掲載されている。

2年生では「数学ブックリスト」や、3年生では高校の数学へとつながる内容も掲載されている。さらに、「ノートの作り方」や「研究をしよう」「レポートを書こう」と、学習の手引が豊富で、生徒に分かりやすく紹介されている。各章の扉では、生徒の日常生活に関連した事柄を扱っており、関心を持てるように工夫されている。図表や写真が鮮明で大きく掲載されており、見やすいように配慮されている。

次に、B者である。初めに、この本の構成と使い方に、「みんなで学ぼう 編」と「自分から学ぼう 編」に分かれている旨の説明がなされている。また、「みんなで学ぼう 編」の構成と使い方には、ノートの取り方も詳しく掲載されている。授業の中で触れた数学的な見方・考え方を振り返り、繰り返し確認できるように「虫眼鏡」マークが設定されており、数学的な見方・考え方を意識し、身に付くように配慮されている。

「数学ライブラリー」では、学習したことに関連した身の回りの題材を紹介しており、生徒の学習意欲を高め、理解できるように多数掲載されている点が良い。また、理科や社会等の題材を扱い、数学との関連が図られるように工夫されている。「みんなで学ぼう 編」の「問」や「練習問題」「章末問題」には基礎的・基本的な問題が配置され、「自分から学ぼう 編」では、興味・関心に応じて取り組むことができる数学を活用する問題や発展的な問題が取り上げられている。「自分から学ぼう 編」の「学びのあしあと」では、学びの記録を残すことができるセルフチェックシートが設定され、該当学年の学習が確認でき、進んで学んでいくことの楽しさを実感できるように工夫されている。

「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」等の表現活動の場面が設定されており、対話的な学習を通して、思考力、判断力、表現力等が育成できるように工夫されている。「みんなで学ぼう 編」は、表の表紙から始まる横開き、「自分から学ぼう 編」は、裏の表紙から始まる縦開きと工夫されている。キャラクターのコメントや図表、写真等が、生徒が課題を自力解決するためのヒントとして有効であり、適切に配置されている。イラストや色調等が温かみのある色を使ったシンプルなデザインで、見やすくなるように工夫されている。

次に、C者である。目次に続き、「この教科書について」「学習の進め方」「ノートの作り方」「レポートを書こう」が丁寧に掲載されている。また、生徒が自ら考えて問題解決に向かう姿を対話形式で掲載することで、問題を数学的に解決するプロセスに焦点が当たるように工夫されている。

各章の学習の前に、既習事項の学び直しができる「ふりかえり」があり、学習内容の系統性を意識した構成になっている。また、各章の本文や、それに関する問題及び巻末の「数学旅行」や「考えよう」等の課題が設定されており、学習の充実と発展を図ることができるように工夫されている。「Q」や「TRY」と、生徒に考えさせるような問いかけを各所にバランスよく配置し、数学的な見方・考え方を働かせながら対話

形式で解決できるように工夫されている。本編と別冊「探究ノート」の2部構成になって、資質・能力を高められるように配慮されており、「例」や「問」が適切に配置され、新しい学習内容に関連する既存事項を振り返りながら、系統性を意識して学ぶことができるように工夫されている。生徒キャラクターの対話を通して、学習内容のポイントと習得に至るプロセスが明確にされ、主体的・対話的で深い学びが実践できるように工夫されている。

「数学旅行」は、地球温暖化問題や温度の単位等、他教科との関連を意識して学ぶことができるように工夫されている。巻末には、「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」や「まとめ」、「学びの自己評価」が掲載されており、主体的な学びができるように工夫されている。問題を考える際のヒントや学習の目当て、まとめ、重要事項等がマークで色分けされて提示されており、生徒が親しみを感じやすいように配慮されている。

次に、D者である。目次には、前の学習との関連が分かるように明示されており、「この本の使い方」、「大切にしたい数学の学び方」、「ノートの作り方」等が詳しく説明されている。「大切にしたい数学の学び方」では、問題解決の進め方とともに、発表の仕方や聞き方、深める視点等が分かるように配慮されている。

1年生は、「0章 算数から数学へ」から始まり、小・中学校の学びの接続が円滑に図られるように配慮されている。各章で育成を目指す資質・能力を、章の扉で明確にし、それらの見方・考え方を働かせた数学的活用を通して育成されるように内容が工夫されている。「虫眼鏡」マークでは、見方・考え方を引き出したり、学びを振り返ったり、見方・考え等を意識したりできるように工夫されている。

「深い学び」のページを各章に設定し、生徒が見方・考え方を働かせた数学的活動を通して課題を解決し、実生活で学んだ数学を生かすことで、考える力が身に付くように工夫されている。「学びをひろげよう」では、数学と実社会とのつながりを伝え、数学の有用性を実感させることで、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。巻末には、「大切にしたい見方・考え方」「数学の自由研究」、「補充の問題」が用意され、個人の多様な個性や能力に対応し、補充的・発展的な学習が行えるように配慮されている。

3年生の「数学の自由研究」の中には、「パスカルの三角形」や「瞬間の速さ」等、高校で学習する内容へつながるものも掲載されている。また、他教科に関連する題材には教科関連マークを付け、生徒の学びが他教科にも広がるように配慮されている。生徒の活動を促す場面では、身の回りの具体的な物の写真を多く用い、数学と日常生活を結び付けて捉え、生徒が親しみや魅力を感じるように配慮されている。

次に、E者である。目次に、既習事項や小学校との関連が示されており、基礎・基本の定着が図られるように工夫されている。その後、「教科書の使い方」や「学習するにあたって」、「数学的な考え方」等が分かりやすく掲載されている。「数学的な考え方」では、学習を進める上で大切にしたい数学的な見方・考え方について、既習事項を用いて紹介し、数学科の目標達成のために工夫されている。

章末や巻末の「学んだことを活用しよう」では、数学に関連のある身の回りの事象を取り上げ、数学を学習したことの良さを実感できるように工夫されている。全ての章の扉で、数学が日常生活や実社会に利用されている事例を取り上げることで、数学を学ぶ必要性や大切さを実感し、数学を学びたいという意欲が高まるように配慮されている。

「Let's Try」では、身近な題材や創作的活動を取り入れ、生徒の学習意欲を高めるように工夫されている。「例題」、「たしかめ」、「問」と繰り返し学習し、基礎的・基本的な内容の定着を図る構成となっている。「補充問題」や「数学の広場」等、生徒が主体的に学習できるページが設けられ、生徒の多様な能力に対応している。「数学の広場」では、職業人を紹介して、数学とのつながりを実感できるようにしたり、環境問題を取り入れたりするなど、他教科との関わりにも配慮されている。「自分の考えをもとう」や「友達の考えを知ろう」と、事象を論理的に考察する力、性質を見だし、総合的・発展的に考察する力、数学的に表現する力を養えるように工夫されている。

2・3年生の巻末には、「図形のまとめ」が掲載されている。キャラクターを用いてポイントを見やすくしたり、写真を用いて実生活と結び付けやすくしたりするなど、生徒が数学に親しみを持てるように配慮されている。

次に、F者である。巻頭には、「数学を見つけよう」と、大きな写真が掲載され、非常に印象的な始まりとなっている。目次には既習事項が示されており、「この本の使い方」「数学の学習を始めよう！」「数学的な見方・考え方を身につけよう！」等と、学習の仕方が示されて、生徒の学習意欲を喚起し、主体的な取組を引き出すことができるように配慮されている。数学科の目標達成のために、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通じた学習となるように内容が工夫されている。

「次の章を学ぶ前に」や「確かめようQ」が適切に配置され、生徒のつまずきを未然に防げるように配慮されている点が良いと思う。また、発展問題の「活用の問題」に取り組むことで、一人一人が自己の学習状況に合わせて学習が進められるように工夫されている。各章の「数学のたんけん」、巻末の「暮らしと数学」等で、身の回りにある数学をコラムや課題として設定し、数学を身近に感じさせるとともに、数学の有用性を実感できるように工夫されている。「数学を仕事に生かす」は、キャリア教育の教材にもなるものと思う。

裏表紙には、各学年とも「図形のまとめ」があり、3年生には「数学の歴史」が掲載されている。基礎的・基本的な内容の「問」や難しい問題の「チャレンジ」、巻末の「補充問題」があり、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、発展的な学習が進められるように配慮されている。「考えよう」、「話し合おう」、「深めよう」のマークが付けられ、思考力、判断力、表現力等の育成及び主体的な学習態度の形成が図られるように配慮されている。生徒が興味・関心を持てるような素材が選定されているとともに、問題解決的な授業展開の流れが明示され、主体的・対話的で深い学びを実践するための工夫がなされている。数学的活動の楽しさや数学の良さが中学生のキャラクターを使って表現され、生徒が親しみや魅力を感じるように配慮されている。

次に、G者である。巻頭、「数学見つけた！！」で始まり、「数学の力」では様々な職業で数学が使われていることを実感し、自分の将来について考える機会が持てるように配慮されているとともに、数学は身の回りなどで役立つものと実感できるようなコラムが掲載されている。

目次には既習事項が記載され、その後に「この教科書を使った数学の学び方」が詳しく示されている。全ての章に、数学的活動に重点を置いて学習できるページが設定されており、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力が育成できるようにまとめられている。各領域には「ふりかえり」が設けられており、これまで学んだことを容易に振り返り、学習効果が上がるように工夫されている。章末には、「基本」、「応

用」、「活用」の三つに分類された問題があり、生徒の習熟度に合わせた学習ができるように工夫されており、学習の充実と発展が図られている。章・節ごとに「目標」が示されており、どのような問題を解決していくと良いのかが明確になっていることで、見通しを持って学習に臨めるように工夫されている。ページ内の「見方・考え方」では、問題解決への方向性が示されており、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成することができるように配慮されている。巻末には、「さらなる数学へ～協働学習のページ～」が掲載されており、「表現する力を身につけよう」では、「レポートの作成」、3年生では、「高校へのかけ橋」等、1年間で学んだことをもう一步進める内容となっている。キャラクターや挿絵、図や写真等は、生徒にとって身近なものであり、学習内容の理解の一助となるように掲載されており、学習意欲の喚起にもつながるものとなっている。

中 村 委 員 どの者も、単に数学の問題を並べているだけではなく、日常生活や実社会において数学がどのように関わっているのかを示しており、生徒が興味・関心を持って学習できるように工夫されている。

まず、A者である。章の導入時に、主体的・対話的な活動が設定されており、生徒の興味・関心を高め、これからの学習に期待を持たせるように工夫されている。学習の参考となる手引として、「研究をしよう」、「ノートの作り方」、「レポートを書こう」等が多く配されており、日常生活や授業で学んだこと、調べたこと、またやりたいこと等、関心を高めながら、様々な学習方法を考えることで、学習内容を生かした活動ができるように工夫されている。「MATHFUL」では、日常生活と数学を結び付け、数学と他教科または総合的な学習の時間などと横断的な学習ができるように工夫されている。数学で学んだ知識を社会生活や自身の職業に生かして活躍している人物を紹介し、学習する内容がどのように日常生活や実社会と結び付いているのかが実感できるように配慮されている。

2年生の巻末に「数学ブックリスト」があり、数学に関連した本の紹介がある。物語ではない数学に関連した本ということで、生徒の興味・関心を高め、読書活動への一助になるように工夫されている。3年生の巻末には、高校での数学を紹介しており、中・高切らすことなく数学という学問の継続性が保たれるように工夫されている。

B者である。本編を中心にした「みんなで学ぼう 編」と、練習問題、応用問題を中心にした「自分から学ぼう 編」の二つの構成になっており、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。また、節ごとに扉が設定されており、学習内容に沿った身近な問題を設定し、生徒が興味・関心を持って新たな学習に入ることができるように工夫されている。

とてもシンプルなデザインで見やすく、温かみのある色調で、色づかいを抑えた作りになっていることで、重要どころの色分けがしっかりと目立ち、分かりやすい構成になっている。ここでは何を学ぶのか、これから何を学習するのが各章の初めに明記されていることで、ストレートに生徒に内容が伝わり、理解しやすいように配慮されている。例題の中でも、例えば正数、分数、少数のように分かりやすいものから出題されており、生徒がしっかりと授業についていけるように工夫されている。節の中の「練習問題」や「章末問題」、「学びをたしかめよう」、「学びを身につけよう」、そして巻末の「力をつけよう」、「学びをいかそう」など、練習問題がとても豊富で、何度も繰り返すことで基礎・基本を定着させることができるようになっている。「数学

ライブラリー」、「学びをいかそう」では、日常生活、理科や社会の題材を扱い、数学との関連を理解し、身近な題材を扱うことで興味・関心を高め、楽しみながら学べるように工夫されている。

C者である。こちらは、本編と別冊に分かれている点が大きな特長である。別冊は「探究ノート」として、本編で学んだことを踏まえ、課題と発展的な学習ができるようなワークシートがあり、主体的な学びができるように工夫されている。

各章の初めに「ふりかえり」があり、小学校の内容を含め、前年までの既習事項を確認でき、新たな学習にスムーズに入っていけるように工夫されている。生徒に考えさせるような問いかけをする「Q」や「TRY」をバランス良く配置しており、数学的な見方や考え方を働かせながら、対話的な学習ができるように工夫されている。「数学旅行」では、身近な問題や、理科、社会といった他教科と関連付けて数学を学べるように工夫されていて、これはとても良いと思った。巻末に、「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」があり、補充問題に取り組むことで、学習した内容の定着を図れるように工夫されている。

D者である。こちらは1年生の巻頭に「0章」というものを設け、「算数から数学へ」と題し、小学校の算数から中学校の数学へ学びの接続がスムーズにいくように工夫されている。「深い学び」、そして「数学のまど」と「学びをひろげよう」「数学の自由研究」では、例えば東京オリンピックのエンブレムにまつわるようなものを取り上げるなど、日常生活や実社会、そして他教科で数学を活用する題材が配され、横断的な学習ができ、数学の有用性を実感し、思考力、表現力を高められるように配慮されていると思った。「学びをふり返ろう」では、それまでの学習を振り返り、自分の言葉でまとめたり話し合ったりし、主体的・対話的な学びができるように工夫されている。問題発見・解決の過程を意図した活動として「深い学び」が設定されており、学習内容を意識させ、主体的・対話的な学びができるように工夫されている。

巻末の「補充の問題」では、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるように配慮されている。また、「数学の自由研究」では、思考力、表現力を高める課題が掲載され、さらにその中で、発展として、高等学校の数学とのつながりも示されており、中学校・高等学校の学習の継続性も考えられている。

E者である。各章の学習に入る前に、小学校で学習した内容や既習内容を確認できる「〇〇を学習する前に」があり、振り返りを促し、新しい内容にスムーズに入ることができるように配慮されている。章の終わりには「学習のまとめ」で学習内容がまとめられており、生徒が理解を深められるよう工夫されている。

各章の初めの扉には、日常生活や実社会で利用されている数学的内容を紹介している。生徒にとって身近な話題を導入課題とすることで興味・関心を引き出すとともに、数学を学ぶ必要性や大切さを実感させ、数学を学びたいという意欲を高め、深い学びができるように工夫されている。学習内容を生かした発展問題等が掲載されている

「Let's Try」や「数学の広場」では、数学が利用されている課題を多く設定し、興味・関心を持って数学に取り組めるように工夫されている。「みんなに説明しよう」という問いが随所に掲載されており、自分の考えを発表したり話し合ったりできるようになっており、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

F者である。表紙裏見開きにある「数学を見つけよう」では、実社会の中に、数学がどのように利用されているか、ダイナミックな写真とともに掲載されており、生徒

が興味・関心を持って学習に取り組むことができるように工夫されている。各章の学習に取り組む前に、小学校で学習した内容や前学年までの既習内容を確認できる「次の章を学ぶ前に」があり、振り返りを促し、新しい内容につながるように配慮されている。節の中に、各学習項目に目当てを示しており、ここでは何について学ぶのかを明確にし、意識して学習できるように工夫されている。身の回りにある数学を、「数学のたんけん」や「数学を仕事に生かす」「暮らしと数学」等で課題やコラムとして設定し、数学を身近に感じ、有用性を実感できるように工夫されている。また、巻末の「対話シート」を使うことにより、自分の考えを整理したり、話し合ったり、主体的・対話的な活動ができるように工夫されている。

G者である。巻頭の「数学の力」では、様々な職業で数学が使われていることを実感することができ、キャリア教育にもつながる工夫がなされている。章の扉や、「役立つ数学」、「深めよう！」等で、身近で数学が役立っている場面を課題として設定することで、数学と社会の関わりを理解させるとともに、興味・関心を高め、深い学びができるように工夫されている。模範的な回答の書き方を示し、「問」や「活用」等に論理的に思考する問題を取り上げたりすることで、主体的な学びを促し、思考力、表現力を養うことができるよう配慮されている。章の終わりの「確かめよう」、「計算力を高めよう」、「まとめの問題」は、「基本」、「応用」、「活用」と分かれ、豊富な問題量で基礎・基本が身に付くように工夫されている。

巻末に、「今の自分を知ろう」があり、SDGsにも触れ、数学の力を使って自分たちにできることを考えたり話し合ったりするという点はとても良い取組である。

教 育 長 各委員から各者の長を挙げていただいた。絞り込みを行ってまいりたいと思うので、ご自身推薦する3者をそれぞれ挙げていただきたい。里村委員から、願する。

里 村 委 員 B者、D者、G者である。

吉 田 委 員 D者、E者、F者である。

花 輪 委 員 B者、D者、G者である。

阿 子 島 委 員 B者、D者、E者である。

中 村 委 員 B者、D者、G者である。

教 育 長 集計すると、A者がゼロ、B者が4、C者がゼロ、D者が5、E者が2、F者が1、G者が3という結果なので、B者とD者とG者の3者に絞りこまれたことになる。

この3者について、改めて確認したいことやご意見等あれば願したい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは次に、この3者の中から1者に絞り込みをしてまいりたいと思う。それぞれ委員より1者に絞ってのご意見をいただきたい。

花 輪 委 員 大局的に見ると、今回提案された教科書は、B者とそれ以外の6者の2種類に分かれる。B者以外の6者は本文を中心に確かな学力を得られるよう配慮されており、新学習指導要領の改訂の趣旨である「社会生活と数学をきちんと結び付けよう」という点が大きな観点となっている。その点について、各者様々な仕組みを使って生徒たちを教育したいというスタイルであり、中でも特にD者が優れていると感じた。

一方、B者は、できるだけ補助資料を少なくし、その代わりに「自分で学ぼう 編」という、自学自習できるスペースを設けていることが長である。「自分で学ぼう 編」で自学自習を求めるという構造であり、非常に良い考え方であると思った。

ただし、「自分で学ぼう 編」において、全ての生徒が自主的に学べるかという点、

多少難しいと感じる生徒もいるのではないかと思うことから、B者とD者を比較すると、私はD者を推したいと考える。

教 育 長 D者を推す意見をいただいたが、他の委員はどうか。

中 村 委 員 D者、B者、G者、どれも分かりやすく、それぞれが考えられた教科書になっているが、B者とD者で少し迷っている。D者の方は本当に良くできた教科書で、先生にとっても、生徒にとっても、理解しやすいものだが、B者の本編は、シンプルで見やすく、内容が分かりやすい野が特長である。本編でしっかりと基礎を学ぶことで、後ろの資料「自分から学ぼう 編」が役立つ仕組みとなっている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休業のように長期に及ぶ休業となった際にも、自分で学べるような内容が付いている点はとても良いと思うので、私はB者を推薦する。

里 村 委 員 B者とD者で非常に迷ったが、D者を推薦したい。B者も非常に魅力的で親しみやすい教科書であるが、やはり数学でしかできないことを教えている教科書という点、D者が一步進んでいるように思う。数学で学ぶべき力は、何と言っても問題解決力である。数学あるいは図を使ってきちんと問題を解決させる力を生徒に身に付けさせる教科書という意味ではD者がいいと思う。

阿 子 島 委 員 いずれの者も小学校から中学校、算数から数学に移行するための導入部や、振り返りの部分に主軸を記載していたり、目次等に丁寧な表記を行ったりする等、それぞれ工夫が見られるので、非常に迷った。しかし、D者の教科書には0章という小学校での復習を兼ねた学習をするページが設けられており、数学が中学校に行くと不安に思っている生徒にとってはポイントになるのではないかと思うので、D者を推薦したい。

吉 田 委 員 結論から申すと、D者である。やはり算数から数学へ、それから数学の世界でも新しい題材へ入っていくときには、導入部分を非常に大切にすべきである。そういった点において、D者は、新たな章を設けて、小学校での学習というものを大事にしていると同時に、章に入る際のタイトルが非常にソフトな呼びかけとなっており、日常生活や遊びといった現実的な場面から、抽象的な数学的思考が必要な学習へと導くような工夫がうかがえる。導入について、しっかりと対応しており、生徒たちも安心して勉強できるのではないかと思うので、D者を推薦したい。

教 育 長 4人の委員からD者という意見があったが、改めて中村委員にB者とD者についてのご意見をいただきたいと思う。

中 村 委 員 中学校に上がる際に、やはり数学はつまずきやすい教科であると思う。B者はそういった生徒も全部救っていくことができるような作りになっていると思う、B者を推薦したが、他の委員の意見にもあるように、D者でもそういったことはできると思うので、D者でも構わない。

教 育 長 委員各位からご意見を踏まえ、数学については、総合的な観点から勘案して、D者を採択の候補としたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、数学については以上のご議論をいただいた内容を採択理由として事務局に整理してもらい、7月29日に最終的に決定していきたいと思う。

続いて、音楽（一般）について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指導主事 中学校音楽（一般）について説明する。

中学校音楽では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指し、「(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする」「(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする」「(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、音楽に関して、「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてその良さや美しさを見いだしたりできるよう内容の改善を図る」、「音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図る」という考え方で内容が改訂され、音楽科の目標、学年の目標については、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。

協議会において取りまとめた中学校音楽（一般）の全発行者の特長は、別添2、別紙1の20ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、我が国や郷土の伝統音楽の良さを味わい、愛着を持つことができるように、表現と鑑賞の活動を関連付けて取り上げるなど工夫されていること。歌唱、創作、鑑賞とバランスよく学習できるように配列されており、「学びのユニット」によって、学びを深められるように工夫されているということである。

次に、B者は1年間の学びを俯瞰できるページと、各ページにポイントを絞った目標が示されており、見通しを持って学習できるように工夫されていること。生活や社会の中の音楽を様々なジャンルから取り上げ、生徒の個性や能力に応じて学習できるように工夫されているということである。

教育長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等あればお願いする。

花輪委員 学習指導要領を見ると、音楽の時間というのは1年生で45時間単位、2・3年生で35時間単位と記載してある。これは器楽も含めての時間数だと思うが、音楽と器楽の授業割合等、各学校での運用について伺いたい。

指導主事 まず、楽器を演奏する授業の割合についてであるが、仙台版スタンダードカリキュラムの時間数を基にすると、1年生は、45時間の中の約15%程度、2・3年生は約10%程度を器楽の授業としている。

花輪委員 1年生で7時間、3年生で5時間程度が器楽の授業という理解で良いか。

指導主事 その程度である。

教育長 他にあるか。

(質疑なし)

教育長 なければ、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。花輪委員からお願いする。

花輪委員 私なりの表現だが、この音楽という教科は、歌を歌う、創作する、音楽を鑑賞するという行為を通じて、音楽文化に豊かに関わる資質と能力を育成することを目標としていると理解した。

今回、2者から教科書の提案があったが、両者の教科書とも、この目標を達成する

ように工夫されたものになっている。

まず、外形的なことを申し上げる。判は2者ともA B判である。冊数は、1年生と、2・3年生の上と下の3部冊である。本文の総ページ数は、A者が267ページ、B者が297ページと、30ページ差があるように見えるが、これはページの付け方、考え方に違いがあり、基本的には両者に差はないと見てよいかと思う。

以下、各者の寸評である。

A者についてである。教科書の構成は3分冊とも同じで、中心は、「うたう」、「つくる」、「きく」の3部構成である。これに続き、「うたう」を深めるための曲、「きく」を深めるための曲が並び、学習資料が入り、その後ろに「歌のアルバム」として、各分冊7ないし8曲の楽譜が並んでいる。日本の歌と海外の歌、日本の伝統音楽、西洋音楽等がバランス良く取り入れられているという印象である。

また、日本や海外の舞台芸術や、和楽器・洋楽器、日本の作詞家・作曲家、海外の作曲家の紹介等、多くの資料が挿入されており、読んでいて楽しいものであった。とりわけ、2・3年生下の6ページにわたる「日本と西洋の音楽の歩み」、それから、4ページにわたる「肖像で見る音楽年表」は特に充実している。また、音楽著作権や、コンピュータと音楽について解説をするなど、現代的な話題も取り入れている点が非常に良く、全体として、音楽を楽しもうという姿勢が表れている教科書だと思う。

次に、B者である。この者の教科書の構成は、「歌唱」を前半に、「鑑賞」を後半に配置し、その間に「創作」の項目である「My Melody」と「Let's Create!」、二つの項目を置いている。教材の間には「深めよう！音楽」を、1年生で5項目、2・3年生上で4項目設定し、皆で考えたり調べたりするグループでの学習活動を促している。また、教科書の後半には「歌い継ごう日本の歌」として歌謡曲や唱歌を各冊3曲ずつ掲載するとともに、こちらほとんどが日本の曲であるが、心通う合唱を、各冊6ないし11曲掲載している。

この者も多くの関連資料を挿入しているが、2・3年生下の「ポピュラー音楽」に関する6ページにわたる解説は大変な力作である。私は、これで初めて、渋谷系が何であるかを知った。また、各分冊の「鑑賞」の後半に掲載されている雅楽や歌舞伎、長唄、文楽等の日本の古典芸能に関する教材も充実している。「心通う合唱」のコーナーに端的に表れているように、この者は、皆で合唱する楽しさを味わおうという姿勢を強く感じるような教科書である。

阿子島委員 どちらの教科書も、写真が豊富でとても美しい教科書だなという印象を受けた。特に、我が国の自然や四季の美しさを印象付ける写真が多く配置されており、楽曲をイメージしやすく、音楽に対する感性が働くように工夫されている。また、著作権や音楽を利用するときに気を付けることが掲載されており、ルールを守って音楽を楽しむような内容が掲載されているのはとても現代的だと感じた。

それではまず、A者から申し上げる。目次に続いて、「学びのユニット」では、学びのねらいと、学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲が示されている。また、学びを深める曲や活動、学びの手掛かりとなるヒントが記載されており、生徒が見通しを持って学習を進められるように配慮されている。日本の伝統的な音楽や古典芸能とともに、諸外国の様々な音楽について学び、それぞれの音楽の持つ共通性と固有性に興味・関心を持たせて、生徒の学習意欲を高めることができるように工夫されてい

る。

音楽の表現、鑑賞活動を「うたう」、「つくる」、「きく」の三つの分野に分けてバランスよく配列し、進んで学び合う活動が展開できるように工夫されている。教材ごとに学びのポイントが明示されており、授業における目的と学ぶべき事項の確認や、振り返ることができるとともに、発展的な学習を進めることができるように配慮されている。また、各教材に「すすんで学び合おう」、「比べてみよう」、「深めてみよう」の表示が設けられており、主要教材の学びを深め、確かなものとするための工夫がなされている。

2・3年生の上巻には「ポピュラー音楽図鑑」、下巻には「日本と西洋の音楽の歩み」と「肖像で見る音楽年表」等が掲載されており、音楽の歴史が分かりやすく示されている。また、「コンピュータと音楽」では、日常的に使われているコンピュータと音楽との関係について考えさせる内容が掲載されており、とても今日的な内容であるという印象を受けた。巻末には「楽典」がまとめられて表示されており、生徒に分かりやすいように工夫されている。資料や写真、挿絵がバランス良く用いられており、楽曲の持つ魅力や、音楽によって描かれる自然の美しさを表すなど、生徒が親しみや魅力を感じるように配慮されている。印刷は鮮明で、全体的に見やすく、活字にはユニバーサルデザインフォントを用い、またカラーユニバーサルデザインに基づく色づかいが配慮されている。

次に、B者である。初めに、「音楽ってなんだろう？」と、3年間を通して「世界をつなぐもの」、「時間とともにあるもの」、「声や音にのせて」をテーマに問いかけ、その次に目次、学習内容の説明が掲載されている。各教材には、学習目標が大きく示され、目標に迫るための具体的な学習活動を例示し、基礎的な学力の定着と活用する力の伸長を図るように工夫されている。吹き出しでヒントを示したり、作者のメッセージを掲載したりすることで、音楽への興味・関心を持たせ、学習意欲を高めるように工夫されている。日本に長く伝わる唱歌や歌唱教材が充実しており、また生活や社会と音楽とのつながりを実感できる教材を多く取り上げ、生徒や地域の実態に応じた音楽活動ができるように工夫されている。「My Voice!」では、基礎的・基本的な内容の確実な習得・定着を図ることができるように、また「深めよう！音楽」では、より具体的な観点に基づいた学習や発展的な学びができるように、それぞれ工夫されている。生活や社会の中の音楽を様々なジャンルから取り上げて、興味・関心を喚起させ、生徒の多様な個性や能力に広く対応した学習に発展させる工夫がなされている。

2・3年生下巻、「社会を映し出す音楽」では、多彩なジャンルの作品を紹介する資料について、音楽の広がりと変化が分かるように図で表現しており、「ポピュラー音楽のジャンル」では、海外と日本の主なアーティストと代表曲を紹介して、生徒が幅広い音楽に親しみ、音楽性を高められるように配慮されている。また、「耳でたどる音楽史」では、音楽家の肖像画も含めて掲載されており、巻末には「音楽の約束」として用語等が掲載されている。美しい自然の風景や挿絵がバランス良く掲載されており、音楽の持つイメージを膨らませ、親しみを持って取り組むことができるように配慮されている。ユニバーサルデザインの配慮がなされており、楽譜や歌詞が読みやすく、絵や写真を効果的に掲載するなど、視覚的に分かりやすくなるように紙面構成が工夫されている。

中 村 委 員 では、A者から申し上げる。歌唱、創作、鑑賞とバランス良く学習できるように配

列されており、「学びのユニット」という形で、その題材におけるねらいや活動、学びの手掛かりとなるヒント等が明確に分かるように工夫されている。

「何が同じで、何が違う？」のページでは、共通点や相違点について考え、話し合うようになっており、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

日本の伝統的な音楽、そして古典芸能、海外の音楽等がバランス良く取り入れられており、興味・関心を持って学習できるように工夫されている。また、郷土の音楽や芸能として、日本各地の祭りや踊りを紹介し、それにまつわる音楽を知ること、表現と鑑賞の活動ができ、生徒が興味・関心を持って学習できるようになっている。

B者である。表紙裏見開きに、音楽に関わる著名な人物の紹介があり、そして「音楽ってなんだろう？」ではダイナミックな写真を掲載しており、学習に興味・関心を持って入っていける導入となっている。どの題材が、「歌唱」、「創作」、「鑑賞」になっているのか、どの教材で何を学習するのかが見やすく一覧となっていることで、1年間の学習内容がまとめられ、見通しを持って学習することができるように配慮されている。

日本の文化を丁寧に紹介し、伝統芸能を的確に説明することによって、より深く理解できるように工夫されている。現代のポップス調の音楽にも触れ、幅広い音楽に親しみ、音楽性を高められるように配慮されている。また、「ポピュラー音楽」について、国内外の情報が詳しく掲載されており、生徒たちも、きっと興味・関心を持って学べるのではないかと思った。

里 村 委 員 A者である。歌唱、創作、鑑賞という活動がバランス良く掲載されている。また、実際の音楽活動に関する事項が分かりやすく示されており、表現や聴き取る技能の教育にも十分配慮されている。

長く歌い継がれている日本の歌が多く取り上げられており、日本の文化を尊重するような態度を自然に学ぶように工夫されているということについて、好感が持てた。「学びのユニット」において、領域と分野ごとに計画的に学べるように配慮されている。

1年生の教科書では、冒頭にシューベルトの歌曲「魔王」を楽譜も含めて掲載しており、2・3年生の上・下それぞれには、ベートーヴェンの「交響曲第5番・9番」、2・3年生の下には滝廉太郎の「花」の逸話と写真が掲載されており、それだけで圧巻的な導入部ではないかと感じた。

B者である。教科音楽の学習内容を、「歌唱」と「創作」からなる表現と、「鑑賞」の二つに分けて説明すると同時に、教科音楽においても、歌うだけではなく、思考力、判断力、表現力等を育むための仕掛けや明確な目標が提示がなされている。特に、2・3年生の上では、歌舞伎文学、郷土の祭りや芸能に触れて、2・3年生の下では、能、謡、ポピュラー音楽等、多彩な内容を織り込んだ、言わば音楽の学習を通じて社会とのつながりを強く意識させるような視点が加わっている。豊かな感性を育てるということに向けて、自然を愛する心や友情を大切にすることを育むような教材を取り入れている。学習のねらいや活動の手順が分かりやすく示されており、生徒にとって学びやすい学習活動に結び付けられる構成になっている。

吉 田 委 員 音楽（一般）も、授業改善の三つの観点で見せていただいた。

まず、A者である。A者は、特に鑑賞領域において、多くの解説や資料等で生徒の学習への関心を高めようとする意図が感じられる。また、巻頭に、歌唱、創作、鑑賞

ごとの活動のまとまりが示されているとともに、学びの要素が図式化され、1年間の学習への見通しを持たせていることが特長である。題材ごとに、主に二つの学習目標が示され、活動の方向性が示されているとともに、各所にワークシートが設けられ、学習の効率化へと結び付けている。深い学びについては、各所に各種の音楽要素を確認し、理解を促す特設ページが設定され、学習活動をより確かな方向へと導こうとしていることが感じられる。

さらに、様々な場面で「話し合おう」という呼びかけが設けられており、生徒の間の協働的な活動で課題を解決したり、豊かな表現活動を補うような提案がなされたりしていることも特長である。

続いて、B者である。巻頭に1年間の学習内容を見開き構成で図式化することで、表現活動や鑑賞活動でどのような学習を行っていくのかを俯瞰できるようにし、学習への見通しに結び付けている。また、題材ごとにインデックス的に学習目標と、そのための学習要素が記され、生徒たちにとっての活動の指針となるものと思われる。さらに、「表現」、「鑑賞」の活動の一部や学習を深めるための特設ページにワークシートが設けられ、学習の効率化に結び付くよう工夫されている。「表現」、「鑑賞」活動の要所では、前に学習した内容ごとに歌唱表現のための曲の構成の分析や、より豊かな鑑賞のための詩や曲想の分析などを通して、音楽の発展的な学習に結び付けている。その他、紙面構成に余裕が感じられ、楽譜、資料、解説が読み取りやすい印象を受ける。

教 育 長 各委員から2者についてご意見をいただいたが、絞り込んで1者にしていきたい。この時点で何かご質問やご意見があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、2者のうちから1者に絞るということで、どなたでも結構なので、A者とB者、どちらを推薦するか、考えを出していただければと思う。

中 村 委 員 私はB者を推薦したいと思う。A者もB者も、内容的にととてもすばらしく、どちらを読んでいても、すごく楽しく見入ってしまったが、どちらかというとならB者の方が幅広い音楽に触れており、生徒が音楽に親しみを持てるような楽曲の選曲であると感じた。

教 育 長 B者を推薦する意見があったが、他の皆様はいかがか。

阿 子 島 委 員 両方の教科書とも、色々なものが掲載されており、楽しんで見せていただいた。大変悩んだが、音楽のジャンルが幅広く取り扱っているという点で、B者の方が印象的だったので、B者を推薦したい。

教 育 長 お二方からB者を推す意見があるが、他の委員はいかがか。B者ということではよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、音楽（一般）についてはB者を推す意見が出されたので、これまでの分析を踏まえて整理していただくとともに、B者を採択の候補として進め、最終的には7月29日の委員会で決定していきたいと思う。

続いて、音楽（器楽合奏）について、事務局から学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 中学校音楽（器楽合奏）について説明する。

学習指導要領に示されている目標、改訂の趣旨等については、中学校音楽（器楽合奏）では、目標、改訂の趣旨ともに、音楽（一般）と同様である。

学習指導要領において、器楽教材の選択に関しては、我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみが持てたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるものを取り扱うことと示されている。

また、器楽の指導で用いる楽器の扱いについては、「生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて、和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年間を通じて1種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること」と示されている。

協議会において取りまとめた中学校音楽（器楽合奏）の全発行者の特長は、別添2、別紙1、21ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、学びのねらいからまとめの曲までがまとまりで示され、学習の見通しが立てやすく、演奏の基礎から応用までを取り上げ、学習意欲が高められるような配列が工夫されていること、それぞれの教材に、演奏する上でのポイントが分かりやすく示されること等の工夫がなされているということである。

次に、B者は、学習したことを深める場面では、キャラクターの会話を用いるなど、主体的・対話的な学習ができるように工夫されていること、イラストや写真が効果的に用いられており、生徒が演奏しやすいように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問やご意見あればお願いしたい。

里 村 委 員 教科書を選ぶときの参考にしたと思った観点からの質問である。まず、この器楽合奏に全く親しめない生徒もいると思うが、この教科書を使い、どのような点に気を付けて先生は教えているのかということを知りたい。

それから、この教科書を見ると、非常に多くの楽器が示されているが、当然それだけの楽器を各中学校で用意されているわけではない。そのような中で、なぜリコーダーが教材として選ばれているのか、その観点についても教えていただきたい。

吉 田 委 員 里村委員の二つ目の質問に関連して、実際、仙台市立の中学校では、主にどんな楽器が使われているのか教えていただければと思う。

指 導 主 事 まず、一つ目の質問についてである。器楽合奏の教科書では、各楽器の本当に基礎的な音の出し方や運指等の内容を中心に学習することとなるが、各学校の教員も、基礎的な指導の中で、運指等だけではなく、より美しい音色を追及するなど、指導に工夫を加えながら、器楽に親しめない生徒への対応を行っている。

次に、二つ目の質問についてである。現在の学習指導要領では、器楽の指導において、先ほども申し上げたが、「生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、必要に応じて、和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年間を通じて1種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国、郷土の伝統音楽の良さを味わい、愛着を持つことができるように工夫すること」と示されている。仙台市内の中学校においては、器楽合奏の教科書を使って、アルトリコーダー、それから和楽器の中では琴を中心に指導している学校が多く見られる。ギター、篠笛、太鼓についても、少数だが指導している例がある。

教 育 長 中学校で、全ての生徒が持っている楽器というものはあるのか。個人で準備して器楽の授業に臨むというような楽器はあるのか。

指 導 主 事 必ず購入して準備しなければいけないというように示されているものはないが、実態としてはアルトリコーダーが一番多いと思う。

教 育 長 他にご質問等ないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは各教科書の見本本について、その特長を各委員から挙げていただきたいと思う。

吉 田 委 員 この器楽については、様々な楽器に対して興味・関心を持つとともに、楽器が演奏できるようになることが目的と思われるので、主体的学びに関する要素を中心に見せていただいた。

まず、A者である。A者においては、編集の在り方が、管楽器、弦楽器、打楽器と、楽器の種類ごとにまとめて掲載していることが特長である。また、各楽器の導入の部分に奏者の言葉が記され、楽器に対する関心を高めるとともに、学習への動機付けに結び付くものと思われる。さらに、各楽器の各部の名称、演奏性、奏法が写真やイラストで丁寧に示され、生徒にとっても学習の見通しを持つことができるものと思われる。特に、「リコーダー」の学習については、楽曲ごとに運指の在り方が図解され、演奏の手立てとして効果的だと思われる。振り返りの点については、各楽器の学習のまとめとして、ほかの同じ種類の楽器でも、その特長を把握させ、共通点、相違点を確認させながら、さらには各国の同種類の楽器を紹介し、学習の発展に結び付けている。

続いて、B者である。B者は、各楽器の学習の導入が鑑賞から始まっていることが特長である。各楽器の代表的な楽曲に触れることにより、演奏への興味と関心を高め、学習への動機付けを図ることができるものと思われる。また、同じ導入部分で、写真と図解で各楽器の各部の名称、演奏姿勢、奏法と丁寧に解説している。特に、箏については、各奏法を写真と解説で丁寧に説明していることが特長である。リコーダーについては、楽器の手入れまでも触れており、使用する道具を大切にすることの育成に結び付くものと思われる。全体的に、写真や図解、楽譜のレイアウトが明瞭で、見て読み取れる編集と受け止めた。

花 輪 委 員 この音楽（器楽合奏）は、楽器の取り扱いを学び、個人で演奏を楽しむだけではなく、合奏を通じて他者と調和を図ることの大事さを経験し、音楽文化を理解する力を付けることと理解した。

今回、2者から教科書の提案があったが、両者の教科書とも、この目標を達成するよう工夫されたものになっていると思う。

外見的なことであるが、大きさは2者とも音楽（一般）と同じA B判である。冊数は1分冊で、ページ数が、A者が99ページ、B者が107ページだが、前述のとおり、ページの付け方に2者で違いがあることから、両者の分量の差はないと見てよろしいかと思う。

以下、各者の寸評である。

A者、教科書の構成であるが、前半に取り扱う楽器をまとめている。約60ページ分である。その後ろに、「合わせて演奏しよう」と題し、初めに「Let's Play!」で9曲、次に「Let's Try!」で13曲の楽譜が並んでいる。基本的なところと応用的な楽譜

とすることができる。最後に、「名曲旋律集」として著名な旋律が10曲選ばれて示されている。名曲に親しむ良い導入になっているのではないかと思う。

この者が扱う楽器は、洋楽器でリコーダーとギター、和楽器で篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓である。楽器の中では、全員が持っていると思うリコーダーに14ページ分を割いて、充実した説明がなされている。また、2か所で、3種類の楽器について「何が同じで、何が違う？」と題して、「話し合おう」と呼びかけている点は、楽器の特性を考える良い内容だと思った。一つは、笛の仲間であるリコーダー、篠笛、尺八、もう一つは弦を張った楽器であるギター、箏、三味線である。さらに、その次のページには、「吹く楽器の仲間たち」や、「弾く楽器の仲間たち」で、各国の民族楽器を紹介しているのも大変良い内容だと思った。

次に、B者である。導入部で中学校の器楽の学習内容が示されており、大変分かりやすいと思った。この者の構成で特長的なのは、初めに「アンサンブルセミナー」として合奏曲を3曲掲載していることである。実際にすぐ演奏できるかどうかは分からないが、簡単な曲で合奏の楽しさを味わおうという趣旨だと理解した。

この後、楽器の取扱いの説明に入る。内容的には、世界各国の様々な打楽器を5ページ分にわたり紹介している点が特長である。また、この器楽の説明の最初のページには、その楽器が主役を担っている曲を鑑賞しようということで、数曲ずつ紹介している点も良い工夫だと思った。具体的には、ギターでは「アルハンブラの思い出」のような名曲である。この者は、楽器の説明の後に「アンサンブル」として15曲、「楽器でMelody」として9曲の楽譜を掲載している。この者の教科書は、合奏を楽しもうという姿勢が色濃く表れているように思った。

阿子島委員 まず、A者から申し上げる。冒頭に、「さまざまな音色や響きと奏法」が写真で掲載されており、目次も見やすくなっている。生徒の基礎的・基本的な学力を定着させるために学びのねらいが初めに記載されており、それらを活用した音楽表現の学習に取り組めるように工夫されている。楽器学習の後に鑑賞曲が紹介されており、奏法の近い楽器を聞き比べるなどの構成で、表現と鑑賞の領域を横断した学習の充実と発展が図られるように工夫されている。音楽文化の理解を深めるために、リコーダー、篠笛、尺八の吹く楽器、ギター、箏、三味線の弾く楽器、太鼓等の打つ楽器に分けられ、それぞれの楽器の説明や演奏の仕方が明記されており、学習の見通しを踏まえた学びの順序が整理され、とても分かりやすい印象を受けた。

全体が、「演奏の仕方を身につけよう」、「合わせて演奏しよう」の二つの構成となっており、基礎的知識や技能を身に付け、さらに習得した知識や技能を活用できるように配慮されている。教材ごとに学びのねらいが示され、生徒が見通しを持って主体的に学んだり、学習を深めたりできるように配慮されている。「Let's Play!」「Let's Try!」では、様々な楽曲に取り組み、技能を高めることができるような構成となっている。我が国の伝統的な楽器を代表する演奏者のメッセージや、世界の様々な楽器が演奏される写真を効果的に掲載し、生徒の関心や意欲を高めるように工夫されている。全体的に見やすく、ユニバーサルデザインフォントの活用やカラーユニバーサルデザインに基づく色づかいが適切である。

次に、B者である。目次に続き、「『中学生の器楽』の学習内容」には、学習指導要領に示されている内容を踏まえて、身に付けたい資質・能力を具体的な学習項目として一覧で明示されている。我が国及び諸外国の多様な音楽に親しみながら、表現の

技法を段階的に身に付けることができる構成で、学習意欲が高められるように工夫されている。「アンサンブルセミナー」というセッションが設けられており、器楽学習を通じて、人と関わり、より良い奏法を求め、役割を果たすように工夫されている。独奏から合奏まで多様なスタイルによる器楽の学習が可能となっており、発展として、創作活動を取り入れた内容も掲載され、学習内容の充実が図られるように工夫されている。

「各部の名称」「姿勢と構え方」、楽器の奏法と学習内容が楽器ごとにまとめられており、特に打楽器では多くの資料が掲載されているなど、生徒が学習のねらいを明確にできるように配慮されている。器楽の奏法とアンサンブル曲とを分けて配列しており、教材も豊富で、多様なジャンルの楽曲が取り上げられている。キャラクターやコラムによる考える観点の例示があり、生徒の興味・関心を喚起することに加え、話し合いの場面から、主体的・対話的で深い学びが実践できるように配慮されている。関連する鑑賞教材を紹介するなど、多様な学びが実践できるように配慮されている。また、資料の「楽器の図鑑」は、一目で楽器の種類が分かりやすくなっている。イラストや写真が多く用いられているとともに、生徒が学習しやすいような表記や表現に配慮されている。さらに、ユニバーサルデザインフォント等を使用し、サイズや楽譜も鮮明で見やすく表記され、配色もコントラストを明確にした視覚特性に配慮されている。

中村委員では、A者から申し上げる。様々な楽器を写真で紹介し、和楽器について詳しく説明することで学習意欲が高められるように配慮されている。楽器の奏法を習得するまでの段階を踏んだ練習の仕方の指示が分かりやすく、技能を高められるように工夫されている。「何が同じで、何が違う？」のページでは、それぞれの楽器の特徴を踏まえ、共通点や相違点について考え、話し合うようになっており、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。また、その右ページに、世界各国の楽器を紹介しており、知識が広がると思った。様々なジャンルの中から親しみやすい楽曲を選曲したり、難易度の高いまとめの曲を設定したりすることで、生徒が興味・関心を持って取り組めるように工夫されている。

B者である。表紙裏見開きに、音楽に関わる著名な人物の紹介があり、「音楽ってなんだろう？」では、日本を含め世界各国の音楽にまつわる写真を掲載しており、学習に興味・関心を持って入っていくことのできる導入となっている。和楽器を多く取り上げて紹介しており、日本古来の楽器に興味を持つきっかけとなるように配慮されている。また、日本古来の楽器に対する理解を深め、日本や海外の多様な音楽にも目を向け、興味を持たせ、学習意欲が高められるように工夫されている。キャラクターやコラムによる考える観点の例示や、「深めよう！音楽」「My Melody」等で思考力や表現力が養われるように工夫されている。親しみやすい楽曲が掲載されており、生徒が楽しく意欲を持って楽器演奏に取り組むことができるように工夫されている。

里村委員 A者である。楽器の基本的奏法について、丁寧な解説と写真を示し、知識・技能の確実な定着が図られるように配慮していると思う。様々なジャンルから親しみやすい楽曲を選び、加えて、まとめの曲では難易度の高い曲を選曲して、生徒の興味を高めるように工夫されている。各楽器の基本的な奏法、これは小学校で学んだ楽器との比較をして説明を加えるなど、理解を深めるように工夫されている。

B者である。楽器の奏法について、具体的なアドバイスを提示しているということ

と、分かりやすく写真やイラストを交えた説明を加えて、演奏技能をスムーズに習得できるように工夫されている。冒頭に近いところの、6ページからなる「アンサンブルセミナー」では、各パートの役割や、全体の響きを感じ取って、それぞれが表現を工夫しながら演奏し、全体の中の一員としての自発的な学習を促すように工夫されている。「リコーダーの演奏を聴こう」では、各楽器の特徴を感じ取ることができる曲を例示しており、音楽を通じて創造的な学習ができるように工夫されている。

教 育 長 各委員より分析・ご意見をいただいたので、さらに確認したいことやご意見等あればお願いしたい。特にないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、2者から1者への絞り込みに進みたいと思う。A者、B者、どちらの発行者の見本本を推薦するか、ご発言をお願いしたい。

花 輪 委 員 私はB者を推薦したいと思う。寸評のところでも言ったが、この者は、皆と一緒に歌ったり、皆と一緒に演奏したりすることで、各パート、各声部の役割を考えさせたり、どのようにしたら良い音楽になっていくかということを意識的に導いていることが色濃く出ている。「アンサンブルセミナー」から始まり、このように考えて合奏しようという提案があった後、楽器の説明が続き、最後にもう一度アンサンブルを行うという構成である。この構成が非常に良いと感じた。また、音楽(一般)のところではこの者のデザインは非常に良く、楽譜が見やすい。色を付けられて楽譜があると、私は見えにくいと思ってしまう。この者は、どちらも白い紙面に楽譜を印刷してくれていて、大変良いと思った。そのような理由から、B者を推したいと思う。

吉 田 委 員 私もB者である。仙台市立の中学校では、洋楽器はリコーダー、和楽器は箏が主に使われているが、B者はこの二つの楽器について、導入部分でページ数を割いて詳しく説明している。A者と比較すると2ページ多く、その分丁寧に扱われているという印象を受ける。また、導入部分で鑑賞から入っているということも特長である。さらに、リコーダーの取扱いについては、掃除の仕方を掲載し、物を大切にするという内容を学ばせる内容となっているとともに、箏のページでは、単なる姿勢だけではなく、和楽器特有の礼儀についても触れており、B者の特長と言える。

そういった点から、B者を推薦したいと考える。

阿 子 島 委 員 私も、B者を推薦したい。各者とも色々な楽器を掲載してしるが、B者の方が打楽器の種類が豊富で、タンバリンに始まり幅広い種類が掲載されている。他の楽器はなかなか難しくても、これならば私にもできるものがあるのではないかと思える豊富さで、アンサンブルにも参加できるのではないかと思ってしまうほどである。

教 育 長 3名の委員よりB者というご意見をいただいたが、中村委員、里村委員はいかがか。

里 村 委 員 他の委員の意見を聞き、苦手な生徒がどのように器楽を学習するのかということについて、自分なりに理解したことがある。楽器が苦手な生徒を指導していく際に、扱う楽器の種類が豊富であれば、アンサンブルに参加する選択肢も増え、苦手な生徒の救いになるのではないかということである。

教科書の編集において、両者ともリコーダーからギター、箏と進んでいくが、B者は最後に打楽器が入っている。今申し上げた視点から、打楽器を入れておくことで、吹くことが苦手な生徒の救いになるのではないかと感じた。以上より、私もB者を推したいと思う。

教 育 長 中村委員はいかがか。

中 村 委 員 里村委員の意見にもあったように、得意でない生徒も親しみやすい曲がたくさんある。聞いたことがある曲だとリズムが取りやすく、色々な楽器を演奏していても分かりやすい。また、打楽器は、比較的楽器が苦手な生徒でも親しみやすく、全員がその場で色々な演奏に参加することもできると思う。そのような点から、B者を推薦したい。

教 育 長 各委員からご意見いただき、B者を推薦するという事で一致した。事務局に整理してもらい、7月29日の委員会で採択する形としたい。
それでは、ここで一旦休憩とする。

(休憩 午後4時15分～午後4時30分)

教 育 長 それでは協議を再開する。

次は、保健体育についての協議である。

事務局から学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 中学校保健体育について説明する。

中学校保健体育では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指し、「(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする」、「(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」、「(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、保健体育に関して、体育分野においては、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえた指導内容が示された。

保健分野においては、「個人生活における健康」に関する課題を解決することを重視する観点から、配列を見直し、健康な生活と疾病の予防については、内容を学年ごとに配当された。また、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容が示された。

協議会において取りまとめた中学校保健体育の全発行者の特長は、別添2の別紙1、22ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、「課題をつかむ」で生徒の関心・意欲を高め、「学習のまとめ」で学習内容がまとめられており、主体的な学習につながるように配慮されているということである。

次に、B者は、課題解決に向けて、単元ごとに「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という学習の流れが示されており、主体的な学習を促すように配慮されているということである。

次に、C者は、「やってみよう」「話し合ってみよう」等の、学習活動で課題を明確に示すことで、思考力、判断力、表現力等が育まれるように工夫されているということである。

次に、D者は、「探究しようよ！」のコーナーが設けられており、生徒それぞれが課題意識を持ち学習することで、より主体的な学びにつながるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、質問等があればお願いします。

花 輪 委 員 この保健体育は、学習指導要領によると、1学年当たり105単位時間実施するということで、1年生から3年生まで標準の時間数が記載されているが、仙台市では、教科書を使った座学にどのぐらいの時間を充てるよう各中学校に指導しているのか。

指 導 主 事 保健編と体育編に分かれており、保健編では、3年間で48単位時間程度、体育編では、体育理論ということで、各学年3単位時間以上で扱っているということになる。

教 育 長 他にないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは各発行者のそれぞれの特長等について、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思う。初めに、阿子島委員からお願いします。

阿 子 島 委 員 いずれの教科書も、写真やイラストがとても豊富で読みやすい印象を受けた。

それではまず、A者から申し上げる。目次に、3年間で学習する内容が記載されており、口絵には、「オリンピック・パラリンピックに世界中の人が注目!」、「私たちの成長と運動やスポーツの広がり」、「共に生きる」、「よりよい未来に向けて」と、様々なスポーツや私たちの生活に関心を持たせる写真が数多く掲載されている。その後に「この教科書の使い方」と「保健体育の学び方」が明示されており、生涯にわたり健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために必要な意思決定や行動選択を学ぶ内容構成にするなど、教科の目標達成のために様々な工夫がなされている。

3年間の中学校生活を通して、心と体の成長を促し、体力を高め、健康的な生活習慣やスポーツに親しむ習慣が身に付くための知識がとても分かりやすくまとめられている。また、自然災害から命を守るための行動の仕方や災害情報の入手・活用の仕方等、豊富に紹介しながら、日頃の備えの重要性について学習できるように工夫されている。学習の流れや系統性を示し、見通しを持って学習に臨めるように工夫されている。「章のまとめ」には、「知識・技能の確認問題」が配置されて、復習した内容が定着できるように工夫され、学んだことを活用して取り組めるように発展課題が設定されている。さらに、学習したことを広げたり深めたりできるように、「クローズアップ」や「特集資料」等を設け、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。イラストや有名アスリート及び同世代の中学生が諸活動に取り組んでいる写真が掲載されており、生徒が親しみや魅力を感じるように配慮されている。図表や写真は、本文の内容に合わせて見やすく大きく掲載されており、レイアウトバランスが適切である。

次に、B者である。巻頭に、「オリンピック・パラリンピックのメッセージ」、「人と人をつなぐスポーツ」、「運動やスポーツと食事」、「支え合って生きている」等が掲載されており、共生の視点を重視した口絵となっている。その後に「この教科書の使い方」、「保健体育の学習方法」が続けて掲載され、「ブレインストーミング」や「ロールプレイング」等の学習方法を紹介するなど、グループ活動や言語活動の充実を図るよう配慮されている。豊かなスポーツライフの充実を目指すとともに、心身の健康の大切さを認識し、健康なライフスタイルを確立するという観点に立った内

容となっており、現代的な諸課題に対応している点が良い。

「保健編」、「体育編」とともに、学習内容が学習指導要領に合わせて組織的・系統性に配列されており、学習を発展的に進めていけるように工夫されている。章ごとに学習することが初めに示されており、ねらいを把握して見通しを持って主体的に学習に取り組めるようになっている。また、章の最後に「学習のまとめ」のページを設定し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る「確認の問題」と、発展的な学習につなげる「活用の問題」が掲載されている。

各単元の「見つける」では、学習課題の確認前に、本時の学習に関連したものを基に考えたり話し合ったりする活動を取り入れ、主体的に課題解決に取り組むことができるように工夫されている。口絵の他、「章末資料」の「インターネットによるコミュニケーションとトラブル」や「さまざまな自然災害の危険と安全な避難」、「読み物」の「中学生が深めた地域のきずな」や「震災とスポーツ交流」等、今日的な課題に関わる資料が多く掲載されており、生徒が関心を持つように工夫されている。巻末の「キーワードの解説」は分かりやすく、本文と資料等のレイアウトに統一性を持たせ、バランスが適切であるとともに、図表等が効果的に配置され、見やすくまとめられている。

次に、C者である。巻頭から、「生きがいのある豊かな生活を!」、「スポーツは世界の言葉」、「私たちの生活とスマートフォン」と、多くの口絵が掲載されており、多彩な写真と文章によって生徒に印象付ける導入となっている。「この教科書の使い方」や「1時間の学習の主な流れ」、「保健体育の学び方」もとても分かりやすく掲載されている。生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を図る内容構成となっており、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。実践力につながる効果的な学習が行われるように単元のまとまりを重視した構成で、「章末資料」も生活との関連が図られるように工夫されている。本文の資料を活用しながら、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」という課題が明示され、思考力、判断力、表現力等を育むことができるように配慮されている。

「体育編」、「保健編」とともに指導内容を体系化しており、身近な生活における健康、安全に関する基礎的・基本的な内容を分かりやすく、より実践的に学習できるように工夫されている。各章末に「重要な言葉」を掲載し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、「学びを活かそう」では、実生活に沿った発展的な学習が進められるように配慮され、言語活動の充実に配慮されている。「心肺蘇生法」では、手順が写真で分かりやすく紹介され、実習でも使いやすいように折り込みによる配置となっている。巻末資料には、「新体力テスト」が掲載されており、ページの下には「ミニ知識」が多数掲載されている。

本文と資料が分けて掲載されており、生徒が自学自習を行いやすいよう工夫されている。アスリートからのメッセージや、オリンピック・パラリンピックの歴史等を掲載し、生徒が関心を持てるように工夫されている。グラフや表、図、写真等の資料が豊富で、生徒が視覚的に捉えやすいように工夫されている。

次に、D者である。初めに、「保健体育を学ぶ皆さんへ」として「体育編」と「保健編」の解説が明示され、その後の目次に続き、「スポーツで世界を一つに」、「スポーツ・健康・安全の分野で活躍する人たち」の紹介があり、豊富な口絵で、生徒に親しみや魅力を感じられる導入になっている。また、「この教科書の使い方」、「さ

さまざまな学習方法」が詳しく説明されている。生涯を通じて心身の健康の保持増進や運動に親しむ資質や能力を育てることのできる内容構成になっており、基礎的・基本的な内容が重視されている。健康問題を多く取り上げており、自らの健康を適切に管理し、生活を改善していく能力を身に付けることができるように工夫されている。

学習の流れの中には、「課題をつかむ」、「実習」等の既存事項を活用した活動や、自分自身に置き換える活動での紹介など、より実践力を身に付けられるように工夫されている。基礎的・基本的な事項が本文にまとめられ、「章のまとめ」によって習得した知識を確認できるとともに、「探究しようよ！」で発展的な学習につなげられるように配慮されている。「まとめる・深める」では、自ら考え取り組む課題が明示されており、言語活動の充実に配慮されている。巻末には、「保健体育の学習の終わりに」が掲載され、生徒に将来に向けて考えてほしいことが記載されている。また、「キーワードで見る保健体育の学習内容」では、保健体育の学習と他教科等の関連が分かりやすく明示されている。さらに、「新体力テストの行い方」「体力の測定とその活用」が掲載されている。図解やグラフ等がユニバーサルデザインに配慮されており、色づかいも適切で読みやすい工夫がなされている。

中 村 委 員 それでは、A者から申し上げる。まず、口絵で、「共に生きる」を大きく掲載し、他者への思いやりや生命尊重についての理解を促すように工夫がなされている。各章の初めに、章の扉を設け、小学校の学習内容の振り返りと高校での学習内容が示されており、学習の継続性が図られている。各章の終わりに設けられた「章のまとめ」では、「知識・技能の確認問題」が掲載されており、学習内容の定着が図られるように工夫されている。また、学んだことを活用して取り組む「思考・判断・表現の問題」が設定されているのも良い。学習したことを広げたり深めたりできるように、「クローズアップ」、「特集資料」を設け、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

B者である。オリンピック・パラリンピックの視点でスポーツを取り上げ、スポーツから多様な価値観を学べる内容になっている。各章の初めに章の扉を設け、小学校、中学校、高等学校での学習内容が示されており、学習の継続性が図られている。各章の終わりに設けられた「学習のまとめ」では、「確認の問題」が設定されており、学習内容の定着が図られるように工夫されている。また、学んだことを活用して取り組む「活用の問題」、「日常生活に生かそう」では、基礎から発展的に学習ができるように工夫されている。学習内容に沿った資料が充実しており、生徒の学びがより深まるようになっている。「章末資料」が充実しており、章の中に「読み物」としてのコラムが配置されるなど、学習内容に関連した内容も掲載され、生徒の興味・関心を引き出す工夫がなされている。

C者である。オリンピック・パラリンピックを意識した内容が掲載されており、スポーツを通して他者の理解について学べる内容になっている。各章の初めに、章の扉を設け、小学校・中学校・高等学校での学習内容が示されており、学習の継続性が図られている。「重要な言葉」を各章の終わりにまとめて示すとともに、左ページに学習内容、右ページに資料を掲載し、一つの単元を見開き構成とすることで、知識の定着が図られるように工夫されている。学習した内容や資料を基に課題が明示されている「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「学びを活かそう」では、思考力、判断力、表現力等が養われるように工夫されている。

D者である。各章の初めに、章の扉を設け、小学校、中学校、高等学校での学習内容が示され、学習の継続性が図られている。各章の扉では、学習内容に関連した人物を紹介し、いろいろな角度からスポーツや社会に携わることができることを理解させる工夫がなされている。章末の「探究しようよ!」では、調べたり考えたりする課題が明示されており、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。文化としてのスポーツについて学ぶことを通して、伝統や文化を尊重する力を養うとともに、SDGsにも触れており、世界の様々な問題について考えられるように工夫されている。

里 村 委 員 まず、A者である。「課題をつかむ」、実習による「身につける・考える」、「学習のまとめ」と、順序立てた説明があり、スムーズに学習が進められるように配慮されている。「体育の窓」、「保健の窓」で、実生活に則した課題を取り上げるとともに、「コラム」や「事例」では豊富な読み物が用意しており、実生活に役立つ知識をより多く学べるような工夫がなされている。

運動や健康・安全についての課題を自ら発見させるとともに、主体的・対話的に考え、判断させるような活動を促す構成になっている。裏表紙に、「保護者の皆様もぜひご覧になり、子どもたちとともに・・・について考えてみてください」と、教科保健体育ならではの特性の一端を示すような呼びかけがなされており、とても良い着眼だと思う。

B者である。心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するということにポイントを置くとともに、その延長で、生命の大切さ、人権尊重、他者への思いやりなど、極めて大切な課題についてもよく網羅された内容になっている。巻頭に「保健体育の学習方法」を設けて、「課題学習」、「情報の収集」、「ブレインストーミング」、「ロールプレイング」等の学習方法を具体的に紹介することで、保健体育におけるグループ活動や言語活動の重要性を伝える内容になっている。単元ごとに「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「広げる」という流れを示して、生徒に主体的に学習を促すような内容になっている。「体育編」では、運動やスポーツの学び方・効果の説明を通じて、実際に体を動かして運動することへの動機付けをしており、保健体育の基本は座学ではなく、自ら体を動かすことなのだということを示しているように感じ取れる。

C者である。学習のねらいが単元ごとに明記されており、生徒にとって主体的な学習ができるように工夫されている。また、「つかもう」、「やってみよう」、「活用して深めよう」では、生徒の深い学習を促すだけでなく、学んだことを実生活に生かすための工夫が示されている。また、資料が豊富にあり、学習内容の充実を図る配慮が十分になされている。各小単元において、「キーワード」で学習内容を振り返らせ、各章末では重要語句や要点の再確認できるように配慮されている。

D者である。「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」の欄を設けて、学習の流れが分かりやすく説明されている。加えて、生徒に保健体育の見方・考え方を身に付けさせ、実生活で働かせるように工夫されている。単元ごとの紙面構成において、課題解決型の学習も進められるように配慮されている。

資料が豊富で、魅力的である。また、いじめ、がん教育、LGBT等の今日的課題を表現に配慮しつつ、分かりやすく取り上げている。知識と一体となった技能の習得ができるように、実習の手順を示して、チェックリストを配置している。また、ペー

ジ下に「情報サブリ」、「リンク」の説明があり、使いやすい教科書になっている。

吉田委員 保健体育も授業改善の三つの観点から教科書を見させていただいた。

まず、A者である。各章の扉の部分で2ページで編集し、学習内容に関するたくさんの写真とコメントを掲載することで、生徒の興味・関心を高めるとともに、小学校の振り返りと中学校での学習、さらに高等学校での学習の内容を示し、学習の見通しが持てるようにしている。1単位時間においても、学習目標と、それに迫るための学習課題を設定していることが特長である。また、資料のタイトルなどが色分けされ、生徒の意識を向けさせる配慮がなされている。「章のまとめ」には、知識・技能の確認問題、思考力、判断力、表現力等に関する問題が別々に設定されており、学習事項の定着と発展を図ろうとしていることがうかがえる。また、各章の終わりの特設ページには関連事項を掲載し、学習を深める位置付けにしている。この時期の生徒たちの大きな課題である心の健康については、多くのページを取って扱っている。

次に、B者である。各章の扉で小学校の振り返り、中学校、高等学校での学習と、系統性と学習の位置付けを確認している。また、1単位時間が見開き2ページ構成となっており、全体の学習内容を俯瞰できるとともに、冒頭に「学習課題」、章末には、それを受けての学びを発展させる呼びかけが設定されており、パターンが一定している。さらに、その学習過程において、内容に応じた問いかけや考えることへの提案が設定され、学習の見通しが立てやすくなっている。関係資料が豊富に掲載されており、かつ目に優しい色調で、生徒たちの学びの手掛かりに結びつくものと思われる。章の終わりの学習事項の関連資料は、生徒にとって身近なことを、軽重を計りながら掲載していることが特長である。心の健康についてもページを確保し、しっかり扱っている印象を持った。

続いて、C者である。各章の扉は1ページ構成で、簡潔な学習内容の紹介と小学校の振り返り、高等学校での学習が掲載されている。見開き構成の1単位時間の学習内容は、左ページは本文とミニコラムコーナーで、右ページは資料と、一貫した編集内容となっていることが特長である。鮮やかな色彩で構成され、キャラクターを用いながら解説するなど、生徒の興味を引くものと思われる。また、掲載した資料を活用した、書くこと、話し合い等の表現活動を提案していることも特長である。さらに、各章に設定されているワークシートを通して学んだことを生活に生かす活動は、発展的な学習に結びつくものと思われる。

最後に、D者である。各章の導入部分が見開き2ページで構成され、学習へのリード文、その世界を代表する人物の話、写真や図表と、多彩な内容で構成され、生徒の関心を高めようとする意図が感じられる。1単位時間の構成も、学習目標と、それに迫る課題等を分けて位置付けていることが特長である。また、学習過程の発問設定は、生徒の学習への動機付けに結びつくものと思われ、掲載資料も豊富な内容となっている。さらに、章の終わりに設定されている関連内容の「コラム」は、学習を深めることに効果的な内容である。心の健康についても、一定のページ数を確保し、しっかりと扱っている印象を受けた。

花輪委員 この教科は、心と体の構造と機能についての知識を身に付け、運動に親しむことを通じて、心身ともに健康で過ごすための力を身に付けることを目的としていると理解した。

今回、4者から教科書の提案があったが、どの者も、この目標を達成するよう工夫

した教科書を提案していると思う。

外形的なことであるが、各者ともA B判を採用しているが、C者のみ、他者より幅が1センチメートル程狭い変形A B判を採用している。また、各者1分冊で、ページ数は本文と口絵を合わせ190ページから200ページと、各者ほとんど差はない。扱っている内容も各者同じで、1学年当たり、体育編1テーマ、保健編2テーマの組み合わせとなっている。各章の内容やあらまし、学習の順序もほぼ同じだが、各章の項目数は、者によって大きく異なっており、最も多いA者は57項目、最も少ないD者は44項目であった。体育編は4者とも全く同じ項目数だが、保健編での項目立ての違いがこれには反映されている。

以下、各者に対する寸評である。

A者である。この者は導入部を「共に生きる」として、互いに理解し合い支えながら生きることの大切さを訴えるとともに、国際連合の持続可能な開発目標SDGsを取り上げているのが印象的であった。先に述べたように、この者は57項目と1番多い項目立てをしている。中でも、1年生の保健編の2章「心身の発達と心の健康」では、他者は8項目から10項目であるところ、A者は12項目、ページ数も30ページを当てており、とても充実している。内容も、「性への関心と行動」や「知的機能・情意機能の発達」、「社会性の発達と自立」等、他者にはない切り口で記載しているのが印象的で、力が入った章だと思う。章末の「クローズアップ 悩みに上手に対処しよう」も大変良い内容である。

各章の導入は、写真を多用し、章で学ぶ内容を上手に伝えている点も特長である。また、もう一つの大きな特長は、「コラム」等いくつかのカテゴリーの資料を数多く挿入していることである。巻頭・巻末の資料に加えて、「特集資料」「コラム」「事例」「体育の窓」「保健の窓」等、多彩なものである。読んでいて、楽しくなる資料が数多くあった。

次に、B者である。この者の構成上の特長は、他の3者が各学年で「体育編」から「保健編」と進むのに対し、「保健編」から「体育編」に移ることである。また、この者の項目は53項目で、A者に次いで多い。特に、2年生の「保健編4章 健康な生活と疾病の予防②」は、生活習慣病に関する学習であるが、8項目を当てている。喫煙、飲酒、薬物と健康の関係を述べるとともに、薬物乱用の社会的影響や、その要因と適切な対処について、項目を立てた記述となっており充実している。

A者と同様に、いくつかのカテゴリーで、多岐にわたる資料を掲載している点も特長である。例えば、15項目にわたる「巻頭・巻末資料」、33項目にわたる「章末資料」、19項目にわたる「読み物」、5項目にわたる「技能・実習資料」等、とても充実している。また、資料一覧を目次のところに明記している点も分かりやすい工夫である。さらに、巻末には扱っている資料の「出典一覧」が付いており、学習そのものには直接関係しないかもしれないが、好ましい取扱いではないかと思う。

C者である。この者は表紙から最初の章が始まるまで約20ページ弱ある。14ページにわたる口絵を掲載し、その後ろに学習の主な流れや学び方を4ページで紹介している。口絵の中では、食事や生活とスマートフォンの関係に見開きのページを当てている点は良い配慮である。

この者の特長は、各項目で、生徒に対し「やってみよう」、「話し合ってみよう」とアクティブ・ラーニングを促していることである。また、章末には「学びを活かそ

う」の欄を設け、これもグループでの学習活動を求めている。全体的に対話的学習に力を入れていることが分かる。どの者も、1項目2ページ程度であるが、C者は、文章を左ページに示し、右ページに資料を当てている点が特長である。他者に比べ、記述内容をコンパクトにし、資料を大きくまとめて示そうとの考え方を採用しているものである。この点についても、定型化されているので、分かりやすい教科書だと言える。各項目には、関連する話題を説明した「トピックス」、ページの最下段には2行にわたる「ミニ知識」が掲載されており、教科書全体でかなりの情報が与えられている。

最後に、D者である。導入部では、スポーツはすばらしいということを訴えることに加え、食事の重要性や保健体育に関連する施設の訪問を促すなど、多方面に目を向けさせる工夫をしている。

先にも申し上げたが、本文の項目立ては44項目で、4者の中で最も少ないが、1項目に4ページ割いている箇所も多く見られ、記載分量が少ないのではなく、1項目のくくりが広いと理解することができる。

章末は、2から3ページの「探究しようよ!」と、1から2ページの「章のまとめ」で構成されており、大変しっかりしている。学年末には、これに「学習の終わりに」が加わり、1年を振り返る構成となっている。特に「探究しようよ!」は複数の探究の項目が示されており、学習の深化を強く促す内容になっている。また、この者は写真よりもイラストを多く使っていることも特長である。全体的に穏やかな親しみやすい印象を与える教科書である。さらに、32にも及ぶ「コラム」を各所に掲載し、生徒の興味を引くような配慮もなされている。

教 育 長 それでは、各委員からそれぞれの者の特長をお話しいただいたので、これから絞り込みを行いたいと思う。各委員より推薦する発行者を、それぞれ3者挙げていただいて、1回目の絞り込みを進めていきたい。

花 輪 委 員 A者、B者、D者である。

阿 子 島 委 員 B者、C者、D者である。

中 村 委 員 B者、C者、D者である。

里 村 委 員 B者、D者、一つはパスさせていただく。

吉 田 委 員 A者、B者、D者である。

教 育 長 A者が2、B者が5、C者が2、D者が5という結果である。最終的には1者に絞り込みをしていきたいと思うが、この時点で、改めてご質問等があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 各見本本について、最終的な1者をそれぞれ挙げていただきたい。

吉 田 委 員 この時期の生徒たちにとっての課題は、心の健康が1番である。3者挙げた理由は、そういった内容が量的にも中身的にも丁寧に扱われていたからである。

しかし、生徒にとって特に身近な保健の扱いについて比較すると、身近なこととして1単位時間内に様々な問いかけを行う学習過程が構成されており、分かりやすく見通しが持ちやすい点や、紙面構成が見やすいという点でB者が優れていると思うので、B者を推薦したい。

教 育 長 阿子島委員はいかがか。

阿 子 島 委 員 どの者も、とても資料が豊富で読み応えのある教科書になっている。

新型コロナウイルス感染症の記載について見比べてみると手洗いについて掲載さ

れているのはB者だけであり、中学生でも忘れてはいけないことなので、その点からB者を推薦したいと思う。

教 育 長 中村委員はいかがか。

中 村 委 員 B者とD者で迷っている。どちらもとても良い作りで生徒が興味を持って学習できるものであると思う。もう少し待っていただいて良いか。

教 育 長 それでは、花輪委員、いかがか。

花 輪 委 員 私も、B者とD者で迷ったが、B者をやや強く推したいと思う。まず、保健編を最初に持ってきているということにB者の姿勢が表れており、保健編が充実している点が良い。また、生活習慣病等の記述が優れており、心身の健康に関する記述も、優れていると評したA者に匹敵する内容である。以上から、私もB者を推させていただきます。

教 育 長 里村委員、いかがか。

里 村 委 員 B者とD者の2者を推薦させていただいたが、スポーツをすることや、心身の健康を保持するということだけにとどまらず、生命の大切さや、他者への思いやりといったことまで教材として強く付言していることから、B者を推薦したいと思う。

教 育 長 中村委員はいかがか。

中 村 委 員 他の委員のご意見を尊重して、B者を推薦する。

教 育 長 それでは、保健体育については、採択の候補をB者とし、この後、事務局にて整理を行った上で、最終的には7月29日に決めることとしたい。

続いて、一般図書について協議する。

初めに、事務局から説明をお願いします。

特別支援教育課長 それでは、特別支援学校小学部・中学部、それから小学校・中学校特別支援学級で使用する一般図書及び文部科学省著作教科書について説明する。

初めに、一般図書についてである。お手元の別添2をご覧ください。

2にあるように、別紙2にお示しした教科用図書については、教科用図書協議会より、「採択方針、採択基準から見て適切であると判断する」といった報告をいただいている。付属している別紙2をご覧ください。

まず、表は1ページからになるが、この表の見方について説明させていただく。通し番号の右の行に「種目」という用語があるが、これは「教科」と同じ意味で使われている。また、種目欄に、例えば「生活／道徳」等、二つの種目が書かれている図書があるが、これは生活の教科用図書としても、あるいは道徳の教科用図書としても使えるということを表している。さらに、その右側の「R3表示番号」の欄であるが、「小」と表記してあるものは、小学部あるいは小学校、それから「中」と書いてあるのは、中学部または中学校を対象とした図書であることを示している。その後に数字が書かれているのは、宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）選定資料」を参考にして選定した図書である。また、「小A」のようにアルファベットが書かれているものについては、仙台市教育委員会事務局が独自に採択候補とした図書であることを表している。

さて、この一覧表作成に当たっては、令和2年度の一覧を基にして、一覧から外す図書、また、継続して一覧に記載する図書、さらに令和3年度に新たに記載する図書の順に検討をした。

それでは、これについて、別添11をご覧ください。

まず初めに、1ページにある「一覧から外す図書」についてである。

ここには、昨年度までに採択されていた図書のうち、今年度、増刷や重版等の見込みがないことから供給できなくなった図書を載せている。

次に、2 ページだが、これまで採択していた図書のうち、令和 3 年度に継続採択候補から外したいと考えている図書を載せている。こちらについて、調査研究委員会の報告では、特別支援学校小学部・小学校特別支援学級用の「みぢかなかがくシリーズ 町たんけん ーはたらくひと みつけたー」は、「町並みの様子に古さを感じ、あまり見られなくなった職業が多く、児童に説明しても内容を理解しづらいものになっている」というような評価になっている。

また、特別支援学校中学部・中学校特別支援学級用の「21 世紀幼稚園百科 11 からだのふしぎ」については、「使用されている写真の中に、生徒の発達段階を考えると慎重に取り扱うことが求められるものがある」とされている。

この報告を踏まえて、教科用図書協議会より令和 3 年度の継続採択候補本から外すことが適切であるという報告をいただいている。

次に、「継続して一覧に記載する図書」についてである。

こちらは 3 ページから 5 ページまでに小学部・小学校用、それから 6 ページ、7 ページが中学部・中学校用となっている。

これらの図書についても、調査研究委員会の報告を踏まえて、教科用図書協議会より、継続して一覧に記載することが適切であるという報告をいただいている。

続いて、令和 3 年度から「新たに一覧に記載する図書」についてご説明する。

こちらについては、別添 4 をご覧いただきたいと思う。

別添 4 の 1 ページから小学部・小学校用、それから 16 ページから中学部・中学校用の新規採択候補本についての調査研究委員会の意見が記載されている。図書は対象ごとに、「◎」、普通の「○」、それから「△」「/」で評価されていて、「◎」や「○」は、教科用図書としての使用に適していると考えられる対象を示している。新規採択候補本については、どの図書についても、いずれかの対象の欄に「◎」や「○」が記されている。これらの新規採択候補本についても、教科用図書協議会で協議し、「適切である」という報告をいただいている。

これらの協議を経て、先ほどご覧いただいた別添 11 の 3 ページから 7 ページにある「令和 3 年度使用 仙台市立特別支援学校及び特別支援学級教科用図書 学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書（一般図書）一覧（案）」を作成した。継続採択候補本が 145 冊、新規採択候補本が 13 冊の合計 158 冊を記載している。

以上が一般図書についてである。

次に、文部科学省著作教科書についてご説明申し上げる。

こちらについては、別添 12 をご覧いただきたい。

今年度は、文部科学省著作教科書のうち、「特別支援学校中学部用」が採択の対象となっている。書名に星が四つ付いているものは、理解がゆっくりな生徒を対象としたもの、星が五つ付いているものは、理解が比較的早い生徒を対象としたものとなっている。

調査研究委員会における調査・研究の結果については、先ほどの別添 4 の 25 ページに記載していて、使用するのに適しているという評価になっている。

その後の教科用図書協議会においても、教科書として適切であるというような判断をいただいております、委員からの意見としては、「どの種目にも共通することとして、

イラストが効果的に使われている。実際の生活場面での対応などが記載されており、日常生活に結び付くように工夫されている。また、関心や興味が高まるように作られており、大人でも納得したり気付かされたりするような発見のある教科書であると感じた」といったようなご意見をいただいている。

以上、それぞれの教科書については、この後の閲覧時間に手に取って内容等をご確認いただきたいと思う。

教 育 長 それでは、ただいまから、確認の意味も含めて、一般図書と文部科学省著作教科書の閲覧の時間を10分間取りたいと思う。

(図書閲覧 午後5時25分～午後5時35分)

教 育 長 それでは、協議を再開する。

一般図書と文部科学省著作教科書を閲覧していただいたが、ご質問やご意見等あればお願いしたい。

吉 田 委 員 供給できなくなってしまった教科書3冊、ふさわしくない教科書ということで削除された教科書が2冊ということだが、宮城県で採択されたものが5冊、仙台市独自で探し出したものが8冊、計13冊の新しい教科書が供給されたということで、様々な環境や状況下にいる子どもたちに、学習の機会を提供しようとする姿勢が感じられ、良いことであると受け止めた。

教 育 長 ほかにご意見、ご質問等ないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、事務局より説明のあった図書について、採択の候補とすることによるか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、一般図書、文部科学省著作教科書については、事務局から説明のあった、それぞれの著作物、本を候補として決定してまいりたいと思う。

以上で、「令和3年度使用の仙台市立義務教育小学校教科用図書(中学校)の数学・楽(一般)・音楽(器楽合奏)・保健体育及び特別支援学校・特別支援学級の一般図書、文部科学省著作教科書の採択について」の協議を終了する。

本日の協議関係は以上で終了する。

4 付 議 事 項

第18号議案 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について
(令和2年度教育予算について)

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

5 閉 会